

久保・長江中学校区の学校再編に係る土堂小学校区地域説明会議事録

1 日 時 令和5年3月25日（土） 18:00～21:25

2 場 所 土堂小学校体育館

3 出席者 地域住民 84名
教育委員会事務局 10名

佐藤教育長、川鱈教育総務部長、小柳学校教育部長、末國庶務課長
三浦学校経営企画課長、石本教育指導課長、安保学校経営企画課長補佐
石川庶務課管理係長、宮崎学校経営企画課企画振興係長
玉里庶務課管理係主任

4 進 行

担 当	内 容
教育長	<p>18:00～</p> <p>1 開会</p> <p>2 教育長挨拶</p> <p>みなさん、こんばんは。教育長の佐藤でございます。土堂地域の皆様方には、この久保・長江中学校区の再編に係る説明会にお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、これまで地域の方から、対面での説明を早くしてもらいたいという要請もいただいております。我々とすれば、まずは小中学校の育友会の皆様方と意見交換をする中で、ある程度、一定の整理をした段階でということですので今日この場になりました。本当に遅くなって誠に申し訳ありませんでした。</p> <p>皆様方ご存知のように、昨年11月22日に再編の説明会を始めさせていただきました。それ以降、大体ひと月に1回くらいの割合で、6小中学校の役員の皆様方と意見交換を計4回やっておりますとともに、2月5日には、保護者の皆様を対象に、しまなみ交流館で説明会を行ってきたところでございます。今日の土堂地域をかわきりに、地域におきましては、3月28日から30日にかけて久保、山波、長江という順番に地域説明会を進めさせていただく予定としております。</p> <p>本日の説明ですけれども、皆様方には最初ということにはなりますが、11月22日に行った説明の内容とほぼ同様な内容で説明させていただこうと思っております。それからまた保護者の方と質問や意見もこれまでありました。それについての、市教育委員会の説明、回答についても資料としてお配りし、概要になるとは思いますが、その辺りの説明も触れさせていただきながら、約2時間の予定で今日セットしておりますけれども、よろしく願いいたします。簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。</p> <p>事務局自己紹介</p>
教育委員会事務局（司会）	<p>それでは、はじめに資料の確認をします。</p>

住民 1	<p>すみません。お願いします。教育委員会の皆様、今日は土堂学区の地域説明会を開いていただきまして、誠にありがとうございます。説明の前にちょっとお時間をいただいて、ご挨拶したいと思います。私はこの度の統合案の地域にあります尾道市の連合商店街の、中商店街の会長を今期させていただくことになっております村上と申します。説明をいただく前に少しお時間をいただいて、ご挨拶できればうれしいと思うんですが、教育長、3分ほどお時間をいただいてよろしいでしょうか。</p>
教育長	<p>どうぞ。はい。</p>
住民 1	<p>ありがとうございます。お時間をいただきましたので、少し話させていただきます。土堂小学校が、3年前に千光寺グラウンドの仮校舎に上がるという決断がされました時、教育長、そして尾道市長が、今後の学校の在り方は白紙ですというふうに、白紙という言葉を繰り返されました。学校の在り方は白紙という説明を受けてから初めての説明会となりますね。ありがとうございます。</p> <p>保護者説明会では、「尾道教育の新しい風」というキャッチフレーズを言われましたが、具体的に何が新しい風なのか、ぜひ今日しっかり説明を伺いたいと思います。統合して大きな学校を新設する、複数学級でクラス替えができると言われていたようですが、広島県が発表しております人口推計では、尾道市も大変残念ながら少なくとも2035年までに人口は減少し続け、子供も減り続けるということです。大型校を作っても、数年先には、1学年1クラスになる見込みということは、教育委員会のみなさんは、本当によくご承知おきのことだと思います。そうすると、またさらに統廃合して、新しい校舎を建てるということなのでしょう。そもそも大型の学校、学級で子供たちが一斉に先生のお話を一方的に聞くような時代遅れの授業を想定されているとは思いますが、むしろデジタル革新の時代の小学校であれば、小さな学校がたくさん点在して、子供たちが季節や教科に応じて行き来できる、地域を体験しながら育ち、そして専門性の高い授業を既に東広島市などでは行われているように、ウェブ授業で共有するというような新しい体系が想像されます。地域とともに育むデジタル革新時代の教育と、今つくろうとされている大型の学校というのは、昔型の提案、大型の学校をつくるという昔型の提案には、大きなギャップがあると考えております。今日は、そのあたりをぜひ説明していただきたいと思っております。最後になりますが、今回の統廃合の問題は、単に土堂地区だけの問題ではなくて、尾道市全体のまちづくりの問題と考えております。教育委員会のお仕事ではないと門前払いされそうですが、教育行政というのは、まちづくりの根幹で、皆様は、そういう大切な仕事をなさっているのだと思っております。教育委員会の皆様には、本日の説明は、こういった背景を踏まえてお話いただきたいと思っております。貴重なお時間を説明前にいただきまして、誠にありがとうございます。よろしく申し上げます。</p>

<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>またこの後質疑応答の時間を設けておりますので、質問等答えていきたいと思っております。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>3 資料確認 資料の確認と内容の説明を行います。 まず、本日のレジメが1枚目に、次に本日の説明に使用するスライドを印刷したものがございます。</p> <p>左上に資料1とある資料をご覧ください。資料1は、各小学校の今後の児童数と学級数の見込みをお示しした資料であり、令和4年11月22日に育友会・PTA役員の皆様を対象に行った説明会で、役員の皆様にもお配りしております。また、11月29日から3日間、オンラインで行いました保護者対象説明会に際して、全ての保護者の方々に配りしております。この資料は、令和4年度は、令和4年5月1日の児童数・学級数、令和5年度以降の入学生は、住民基本台帳の出生数に基づいて算出しており、上の段は、学校選択制度による入学者を加えない場合の今後の見込みを、下の段は、学校選択制度による入学者5人を加えた場合の今後の見込みを表しています。また、令和5年度以降の入学生は、全て通常学級に入学するものとして算出しています。1ページ目は久保小学校の今後の見込みですが、児童数は減少傾向にあり、今後も全学年1学級が継続する見込みであること、2ページ目は長江小学校の今後の見込みですが、児童数は減少傾向にあり、今後も全学年1学級が継続する見込みであること、3ページ目は土堂小学校の今後の見込みですが、児童数は減少傾向にあり、令和10年度には、学校選択制度の利用による入学者を除く、校区から通う児童については、複式学級が生じる見込みであること、4ページ目は山波小学校の今後の見込みですが、当面の間、全ての学年で複数学級が維持される見込みとなっています。</p> <p>左上に資料2とある資料をご覧ください。これは、学校再編の枠組みについて、複数のパターンを検討し、統合してできる新しい学校の児童生徒数、学級数の見込みを試算したものであり、資料1と同様、11月22日に育友会・PTA役員の皆様を対象に行った説明会で役員の皆様にもお配りするとともに、11月29日からの保護者対象のオンライン説明会でも、全ての保護者の方々に配りしております。この資料は、令和4年度は、令和4年5月1日の児童数・学級数を、令和5年度以降の入学生は、住民基本台帳の出生数に基づいて算出しておりますが、中学校の生徒数については、近年約8%の児童が尾道市立以外の中学校に進学する実態があることから、小学校卒業生に0.92をかけて入学生の見込み数を算出しています。また、令和5年度以降の小学校の入学生は、全て通常学級に入学するものとして算出しています。検討を行った複数のパターンのうち、1ページ目は、久保小学校、山波小学校、久保中学校の3つの学校を統合するパターン、2ページ目が、長江小学校、土堂小学校、長江中学校の3つの学校を統合するパターン、3ページ目が、久保小学校、長江小学校、土堂小学校、山波小学校の4つの小学校を統合するとともに、久保中学校、長江中学校の2つの中学校を統合するパターン、4ページ目が、教育委員会の案である、久保小学</p>

校、長江小学校、土堂小学校の3つの小学校を統合、山波小学校は現在のまま存続、久保中学校と長江中学校の2つの中学校を統合するパターンです。それぞれのパターンについて、後ほど説明をいたします。

右上に資料3とあるカラー刷りの資料ですが、再編してできる新しい学校と、尾道が目指す小中一貫教育校のイメージを表したパンフレットです。このパンフレットも、資料1・資料2と同様、11月22日に育友会・PTA役員の皆様を対象に行った説明会で役員の皆様にもお配りするとともに、11月29日からの保護者対象のオンライン説明会で、全ての保護者の方々にお配りしております。内容については、後ほど説明いたします。

資料4は、11月29日からの保護者対象オンライン説明会に参加された方々から、アンケートでいただきましたご質問に対し、回答を行ったものです。オンライン説明会に参加いただいた保護者は合計226人、参加率は25%、提出されたアンケートの数は263通、提出率は29%、そのうち記載があったものは、187通でした。この回答は、令和5年1月10日に、全ての保護者にお配りするとともに、その回答を読まれての新たなご質問に対する回答、左側の数字の91番から103番を加え、1月24日に改めて、全ての保護者にお配りいたしました。

なお、資料5は、アンケートでいただいたご質問を学校ごとに整理したものです。昨年11月22日に再編案を育友会・PTA役員の方々に説明して以降、役員の方々と月1回程度、定期的に意見交換会を実施してきましたが、この資料は、12月26日の意見交換会にて役員に配布、その後、1月10日に全ての保護者の方々にお配りしております。

まず、全ての学校から、「通学対策・通学支援について」、複数の学校から、「小中一貫教育校の仕組みや教育内容について」、「新設小学校、または中学校の開校時期と校舎の新築時期について」、「今後の協議方法やそのスケジュールについて」、「開校準備、校名、校歌、校章、制服等の検討について」、「統合にかかわる子供のケアについて」、ご意見やご質問がありました。学校ごとに特徴的なものとしては、久保小学校から「新設小学校の設置場所について」、土堂小学校から「保護者や地域への説明の在り方について」「土堂小学校の存続について」、久保中学校から「校舎の位置について」、ご意見やご質問をいただきました。

最後に、資料6は、11月22日に、育友会・PTA役員の方々に再編案について説明して以降、役員の方々と月1回程度、定期的に意見交換会を実施してきましたが、その中で、教育委員会が目指している、令和7年4月統合、令和9年4月新校舎使用開始を目指す場合、どのようなことを、どのようなスケジュール感で進めていく必要があるか、ご質問があったことを受け、1月24日の意見交換会にて、これまでに統合した学校の事例を参考に、今後のスケジュールの案をお示したものです。内容については、この後、説明いたします。

3 学校再編案の説明 18:20～

それでは、久保・長江中学校区の学校再編について、説明します。

教育委員会は、久保・長江中学校区の学校再編について、昨年11月

<p>石川庶務課管理 係長</p>	<p>22日に育友会・PTAの役員の方々に提案を行い、全ての保護者の方を対象に、11月29日から12月1日の3日間、オンライン説明会を、2月5日、しまなみ交流館にて、対面による説明会を開催しました。また、育友会・PTAの役員の方々とは、12月26日、1月24日、2月20日の3回、再編案に係る意見交換会を行っています。</p> <p>本日は、地域の方々への説明会ですが、説明が遅くなりましたことを、まずはお詫びいたします。</p> <p>それでは、スライドに沿って説明します。</p> <p>この度提案した新しい学校は、これからの尾道の学校教育をリードする小中一貫教育校です。新しい学校では、「子供たちが切磋琢磨しながら生き生きと学ぶことができる学校」、「子供たちの夢の実現や社会的自立に向けた、土台づくりのできる学校」を目指し、教育環境や、教育内容を整備し、尾道教育のスタンダードとして、市内小中学校の教育環境や、教育内容の充実を図っていく上でのモデルにしていきたいと考えています。</p> <p>本日ご説明する久保・長江中学校区の学校再編は、久保小学校、長江小学校、土堂小学校の耐震化がきっかけとなっています。まずは、このことについて、振り返りを行い、状況の共有を行います。</p> <p>平成15年度から平成27年度までの取組状況です。</p> <p>当時の基本方針としては、現在地での耐震補強を掲げてまいりました。</p> <p>平成15年度に簡易的な診断を経て、3小学校ともに耐震性がないことを確認しました。</p> <p>平成21年度から平成24年度にかけて詳細な耐震診断を行いました。結果、3小学校ともに低強度コンクリートが存在したため耐震補強は不可と判断しました。</p> <p>しかし、歴史的な建物であったため、免振工法など異なる工法を検討する中、平成25年度ごろ施工可能な耐震補強の工法が見つかり平成26年度から平成27年度にかけて設計業務を行い、久保小学校、土堂小学校は耐震補強の設計が完了、長江小学校は、山際の特別教室棟は耐震補強不可、普通教室棟は耐震補強に加え、一部取り壊しが必要であると診断ができました。</p> <p>平成28年度の検討では、平成27年度の実施設計を受けて、久保小学校、土堂小学校は、現地で耐震補強、長江小学校は、山際に建つ特別教室棟は耐震補強不可のため、現地で改築+耐震補強という方針を持ち、あわせてこの先20年以上使用していくことを想定し、老朽化が著しいことから大規模改修を行う必要があると考えました。</p> <p>工事施工にあたり、敷地までの進入路の狭い長江小学校への改築ができるか、敷地の狭い土堂小学校で児童が居ながらの工事ができるのか、また、久保小学校、土堂小学校校舎は築80年を経過しており、80年という文部科学省の指針を超える状況で継続的に使用ができるのか、など、課題を検討していましたが、広島市での土砂災害を受け、県内での土砂災害防止法の警戒区域、特別警戒区域の指定が進む中、当地区でも指定がありました。</p> <p>尾道市では、安全面を配慮し、土砂災害防止法に基づく、特別警戒区</p>
-----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

域、警戒区域内に新たな建物は建築しない方針をもっており、まずは長江小学校での改築に支障が生じました。

結果、久保小学校、土堂小学校の方針は変わりませんが、長江小学校は敷地内での改築ができないため、別の敷地に改築せざるを得なくなりました。

検討を行う中で、別敷地での改築が必要であるが、周辺に広い土地がなく、適地が見当たらない状況が生じたところです。

また、土堂小学校についても、現在地での耐震補強において、工事中のグラウンドが確保できない状況であるため、施工が困難と判断し、平成31年2月に土堂小学校育友会へ居ながら施工が困難であることを説明しております。

それぞれの課題に対して解決策が見当たらない状況となり、次の手段を模索していたのが、平成29年度から平成30年度の状況です。

そんな中、早急に安全確保を行いたいため、令和元年11月に久保小学校は、山波小学校へ、長江小学校、土堂小学校は、栗原小学校へ転校した後、久保小学校敷地内に3小学校統合校を設立する案を提案しました。

この時点での基本方針は、現在地の耐震補強に課題が大きいことから、別の敷地での対応を検討せざるを得ない状況でした。

しかし、2度の転校は児童への負担が大きいことから関係者の反対があり、一旦、白紙撤回を行った経緯があります。

その後、関係者からの反対意見を踏まえて、令和2年度には、仮校舎への移転による安全確保を目指しています。

学校統合への理解が得られない中、統合と耐震化の問題を切り離して、まずは児童の安全確保を最優先とし、3小学校とも耐震性のない建物を未使用化とし、仮校舎への移転を検討しました。

候補地について、検討しましたが、学区内に大きな敷地はなく、久保・長江中学校をはじめ、閉校となった学校や千光寺公園グラウンドなどしかなく、仮校舎の建築を含め、中学校の敷地を利用した整備が必要となることから、今後は中学校を含めた整備を考えていることを提示し、令和2年度から3小学校に加え、久保中学校、長江中学校PTA役員とも協議を開始しております。

保護者のみなさまの合意もあり、令和3年4月に久保小学校、長江小学校がそれぞれの中学校敷地に、令和3年9月に土堂小学校が千光寺公園グラウンドの仮校舎へ移転し、安全確保が完了しました。

令和3年9月以降は、将来の学校の在り方について、検討・協議を始めしております。

ここまで、これまでの経緯を振り返りました。

以上の経緯を踏まえ、尾道市教育委員会は、今後の学校の在り方について、次の3点を基本的な考え方として検討を進めてまいりました。

まず、安全性の確保についてです。

学校施設を含め、公共施設は、利用者の安全を考慮し、土砂災害警戒区域、特別警戒区域内に新たな整備は行わない方針であること。従って、敷地内と、周囲の大半が土砂災害特別警戒区域にあたる、長江小学校と、土堂小学校の敷地には、新たな施設整備は行わないこと。

三浦学校経営企画課長

次に、校舎の耐久性についてです。

文部科学省は、大規模改修を行った上で、80年建物を使用することを示していますが、それ以上の建築年数が経過している場合、耐震化をしても、長期にわたり使用することは困難であるため、現在の校舎を、耐震補強して使用し続けることは行わない方針であること。従って、久保小学校と、土堂小学校の校舎は、築80年が経過しており、校舎の継続使用は行わないこと。

そして、適正な学校規模の確保についてです。

尾道市教育委員会は、新たな学校施設を整備する際は、よりよい教育環境を確保するため、1学年複数学級となる学校規模での再編を行う方針としていること。久保小学校と長江小学校は、今後も全学年1学級が継続し、土堂小学校は、今後、全学年が1学級となる見込みであること。また、長江中学校も、今後全学年が1学級となる見込みであることから再編の検討が必要と判断しました。なお、山波小学校は、今後も1学年複数学級を維持する見込みであり、令和7年度での学校再編は行わないと判断しました。

以上の考え方を踏まえ、学校再編案をお示ししました。

久保小学校・長江小学校・土堂小学校は、1つの学校に統合します。山波小学校は、1つの学校として存続します。久保中学校と長江中学校は、1つの学校に統合します。この3つの学校は、小中一貫教育校とし、令和7年4月に開校、令和9年4月からは新しい校舎で学ぶことを目指します。

小中一貫教育校とは、学校の組織としては、従来通り、小学校と中学校それぞれが独立した学校ですが、小学校と中学校が目指す子供像を共有し、9年間を通した教育課程を編成して、系統的な教育を行う学校をいいます。これまで小学校と中学校に分かれていた学校教育をつなぎ、義務教育9年間を通して、15歳の生徒に身につけさせたい力を実現できる環境を作ってまいります。

久保小学校、長江小学校、土堂小学校を統合した新しい小学校は、現在の長江中学校のグラウンドに建設します。また、久保中学校と長江中学校を統合した新しい中学校は、現在の久保中学校グラウンド北側に建設します。いずれも令和9年度の使用開始をめざします。山波小学校は、これまで通り、現在の校舎を使用します。

お示した再編案とした理由についてですが、教育委員会は、平成23年12月に「尾道市小・中学校再編計画」を策定し、何より、子供たちにとってのよりよい教育環境を提供するため、複式学級を早期に解消し、1学年複数学級化を図ることといたしました。

これに対し、各校の児童生徒数と学級数の今後の見込みは、先ほど、説明しましたお手元の資料1に記載しています。

画面には、令和4年度、7年度、10年度のデータを映しています。なお、かっこ内の数字は、今後、学校選択制度を利用して各学年5人が入学したと想定しての合計の児童数を示しています。

土堂小学校については、今後、児童数は減少傾向にあり、今後、全学年1学級となる見込みです。また、令和10年度には、学校選択制度の利用による入学者を除く、校区から通う児童については、複式学級が生

じる見込みです。

久保小学校については、児童数が減少傾向にあり、全学年1学級が継続する見込みです。

長江小学校についても、児童数は減少傾向にあり、全学年1学級が継続する見込みです。

山波小学校は、当面の間、全ての学年で複数学級が維持される見込みとなっています。

また、久保中学校は、全学年で2学級規模が維持される見込みですが、長江中学校は、令和11年度には全学年1学級規模となる見込みです。

1学年複数学級のメリットについてですが、まず、クラス替えが可能となり、「人間関係の固定化につながらない」、「授業や行事などで、クラスごとに切磋琢磨できる」ということ。次に、小学校では、教科担任制による専門的な指導を実施しやすくなるということ。専科教員に加え、担任どうしで専門分野の授業を交換し、より専門性の高い授業を行うことが可能となります。また、1つの学年を、複数の教員が担当することにより、組織的な指導が可能となります。特に小学校において、複数の教員で多面的な児童理解を通じた指導を行うことが可能となります。最後に、中学校では、生徒が増えることにより、部活動の活性化につながることを期待されます。

画面には、久保小学校・長江小学校・土堂小学校を統合した新しい小学校の児童数と学級数、久保中学校と長江中学校を統合校した新しい中学校の生徒数・学級数の見込みを映しています。詳しくは、資料2の4ページに記載しています。この試算では、当面の間、小学校は2学級規模、中学校は3学級規模となり、統合による子供の学びへの効果は大きいと考えています。なお、山波小学校は、当面、2学級規模が維持される見込みです。

再編案をお示しするにあたって、その他の再編パターンについても検討いたしました。

①は、資料2の1ページにあるように、久保小学校、山波小学校、久保中学校の3つの学校の統合。

②は、資料2の2ページにあるように、長江小学校、土堂小学校、長江中学校の3つの学校の統合。

③は、資料2の3ページにあるように、4つの小学校を統合するとともに、2つの中学校が統合し、「小中一貫教育校」となるパターン。

以上の3つのパターンを検討しました。

①と③の案は、1学年は2～3学級規模となりますが、山波小学校は、当面の間、1学年複数学級を維持できる見込みであることや、施設整備が大規模かつ複雑な構造となること、②の案は、小学校に加え、中学校も全学年が1学級となる見込みであり、近い将来、第2の学校再編が必要となる可能性が高いこと、以上の理由から、現在の再編案をお示しすることといたしました。

資料3、新しい学校のイメージ図をお手元にお配りしています。

ここでは、新しい学校と、尾道が目指す小中一貫教育校のイメージをお示ししています。

小中一貫教育の導入のねらいについて、資料の一部を拡大して画面に映します。小中一貫教育の導入のねらいは、義務教育9年間を連続した教育課程としてとらえ、児童生徒・学校・地域の実情等を踏まえた具体的な取組内容の質を高めることです。小中一貫教育校では、学校教育目標、目指す子ども像、育てたい資質・能力、学校のきまり等、多くの事柄が、小中共通となります。そのため、教職員は、9年間共通の指導方法で児童生徒に対応することが可能となり、児童生徒も9年間共通の授業の方法や学校のきまりで生活することができるようになります。目指す子ども像は、現段階では、「郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる子ども」と考えています。

また、9年間を通じた教育課程のイメージをお示ししています。土堂小学校は122年、久保小学校と山波小学校は149年、長江小学校は114年の歴史があります。これまで培ってきた学校文化や伝統を、学校全体で受け継ぎ、スクールプライド、学校への愛着や誇りを醸成してまいります。ふるさと学習は、総合的な学習の時間を中心に行い、現在、各小学校で行われている、能、神楽、茶道、太鼓等の教育活動も取り入れながら、新しい中学校区の伝統や歴史からの学びを、9年間という視点で系統的に再構成し、現在の中学校区を超えて展開していきます。

また、新しい中学校区を単位として、1つの学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールを導入してまいります。コミュニティ・スクールとは、学校と保護者、地域の方々がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。コミュニティ・スクールとして、地域の方の授業への参画、児童生徒への学習支援、学校と地域との合同行事等により、児童生徒の学習や体験活動の充実を図ることが期待できます。

次に、提案した建設場所について、説明いたします。

まずは、久保中学校と長江中学校の統合校について、現在の久保中学校の敷地と現在の長江中学校の敷地での比較を行い、現久保中学校敷地へ建設することとしました。理由は、グラウンド面積が、長江中学校と比較して久保中学校の方が大きく、部活動を行う中学校において適していることが挙げられます。校舎は、令和5年度から6年度にかけて設計を行います。そして、令和7年度から8年度までの2年間で工事を行い、その間生徒は、現在の久保中学校校舎と久保小学校仮校舎で学びます。

次に、久保小学校、長江小学校、土堂小学校の統合校について、旧久保小学校の敷地と現在の長江中学校の敷地での比較を行い、現在の長江中学校のグラウンド東側へ建設することとしました。なお、旧土堂小学校敷地、旧長江小学校敷地への建設も検討しましたが、敷地内や周囲の大半が土砂災害特別警戒区域に該当するため、新たな施設整備は行いません。現長江中学校の敷地へ統合校を建設することの理由は、グラウンドに校舎を新築したとしても、グラウンドの基準面積を満たすこと、校舎は5階建てで、屋内運動場を校舎内に整備、また、プールは新設することとし、必要な施設が全て揃います。普通教室は可能な限り2階から3階に整備し、児童の日常生活に影響が少なくなるよう配慮し

てまいります。旧久保小学校へ校舎を建設する場合、校舎は5階建てで、プールを屋上に整備するとともに、体育館は既存施設を活用することで、グラウンド基準面積を満たすことはできますが、令和7年度に、現長江中学校の敷地でいったん学び、校舎新築後、令和9年度に、再度移転する必要があることから、児童の負担が大きく、好ましい状況ではないと判断いたしました。校舎は、令和5年度から6年度にかけて設計を行います。そして、令和7年度から8年度までの2年間で工事を行い、その間、児童は、現長江中学校の校舎と長江小学校の仮校舎で学びます。令和9年4月から、児童は新しい校舎で学ぶこととなりますが、令和9年度から10年度にかけて、現在の屋内体育場を解体し、プールの新築工事を行います。プールは令和11年度からの使用をめざします。

さて、先ほども説明しましたが、昨年11月29日から3日間行った保護者対象のオンライン説明会の後、アンケートによりいただいた多数のご質問に対し、資料4にあります通り、教育委員会としての回答を全ての保護者にお配りいたしました。また、回答を読まれての、新たなご質問の提出をお願いし、改めて全ての保護者に回答をお配りしました。

繰り返しになりますが、アンケートでは、関係する6つの全ての学校から、「通学対策・通学支援について」、また、複数の学校から、「小中一貫教育校の仕組みや教育内容について」、「新設小学校、中学校の開校時期と校舎の新築時期について」、「今後の協議方法やそのスケジュールについて」、「開校準備、校名、校歌、校章、制服等の検討について」、「統合にかかわる子供のケアについて」、ご意見やご質問をいただきました。

また、土堂小学校、長江中学校の保護者の方からは、「保護者や地域への説明の在り方について」、「土堂小学校の存続について」、ご意見・ご質問をいただきました。

回答については、資料4をご覧ください。

関係する全ての学校からいただいた「通学対策・通学支援について」についてですが、主に、長江通りの安全対策についてご心配をいただいています。

新しい小学校における安全対策は、現在の長江小学校における対策が基本となると考えています。現在、長江小学校では、児童の約3分の2が、長江通りを徒歩で通学しています。長江通りは、午前7時30分から8時30分まで、地元住民、路線バス、バイク以外は、北側から南側への一方通行となっていますが、児童の通学の安全を確保するため、教員による登校指導や下校指導、警察を招いての交通安全学習の実施、また、通学の不安な点について、児童会役員がパワーポイントに整理して児童を指導する取組も行っています。保護者や地域の方々による見守りも行われており、長江中グラウンド交差点にて、月に1度、育友会役員の方々、また、ほぼ毎日、地域の方々や学校職員による見守り活動に取り組んでいただいています。

また、長江通りについては、これまでも、学校、保護者、地域からの、安全確保についての要望を、道路管理者である広島県や尾道警察署に

伝え、対応を行っていただいているところであり、今後も、継続して連携を行ってまいります。特に、長江通りのグリーンベルトについては、令和3年度に北側から施工されていますが、それより南側は、外側線から外の幅員が狭いため、今後どのような方法で施工できるか検討を行っていただいているところです。今後、久保小学校、長江小学校、土堂小学校では、学校、保護者、地域の方々で、通学路の候補となる道路の点検を行う予定としております。

登校班による通学も、通学上の安全対策を考える上での選択肢のひとつになると考えています。現在、尾道市内の小学校では、24校中14校で登校班による通学を行っています。久保小学校、長江小学校では、登校班による通学を行っていませんが、土堂小学校と山波小学校では行っており、今後、児童の通学上の安全を確保するために、新しい小学校で登校班による通学を取り入れるかどうか、この後説明します開校準備委員会での検討事項になると考えています。

本市では、通学支援を、小学校では学校から3km以上を基準として運用していますが、新しい小学校では、通学する距離や、対象となる学年など、路線バスを活用した通学支援の可能性を含め、検討することを考えています。また、現在、久保中学校では自転車通学が認められていませんが、長江中学校では、2kmを超える生徒について認めており、新しい中学校ではどのようなあり方が相応しいのか、検討をしていく必要があると考えています。

なお、2月5日の保護者説明会では、ランドセルの重さについてのご指摘をいただきました。これまでも教育委員会では、児童の身体の健やかな発達に配慮し、平成30年以降、荷物の軽量化に向けて持ち物を見直すよう、取組を進めており、各学校では、家庭学習での必要性や学校での使用頻度に応じて、学校に置いて帰る物と自宅に持ち帰る物のリストを作成し、重量は3分の2以下になっていると認識しています。新しい小学校においても、こうした取組を継続し、児童の負担をできるだけ軽減していきたいと考えています。

最後に、今後のスケジュールについて説明します。お手元の資料6をごらんください。

この資料は、育友会・PTA役員との意見交換会にて、令和7年4月の開校、令和9年4月の新校舎使用開始を目指す場合、どのようなことを、どのようなスケジュールで進めていく必要があるか、ご質問があったことを受け、お示ししたものです。進捗の状況によっては、幾らか変更があるかも知れません。おおよそのスケジュールであることをご了解ください。

まず、資料の一番上の枠「児童・生徒」の欄ですが、統合1年前より、関係する6つの学校や、統合する学校間での交流事業を実施、また、通学の練習など、統合に向けた準備を行い、令和6年度末に閉校式、令和7年4月から、統合校へ通学します。そして、令和8年度末には、統合小学校と統合中学校で新校舎が完成し、令和9年4月から、新校舎での学習を開始します。

次に、教育委員会は、令和7年4月開校、令和9年4月新校舎使用開始とするためには、令和5年の9月議会で、校舎の設計等に係わる補正

<p>教育委員会事務局（司会）</p> <p>住民2</p>	<p>予算の議決を、議会にお願いする必要があります。また、令和7年4月より新校舎を建設、令和9年4月以降、現在の久保中学校校舎と久保小学校仮校舎の解体、長江中学校屋内運動場の解体等を行う予定としています。</p> <p>次に、教育委員会と学校は、統合の方向性が決まりましたら、学校教育目標や、9年間を通じた教育課程等、小中一貫教育校の柱となる部分について、具体的に検討を行ってまいります。</p> <p>次に、開校準備委員会、これは、教育委員会、学校、保護者、地域がひとつになって、統合に向けた様々な課題について検討していく組織ですが、統合の方向性が決まった後、できるだけ早期に設置します。検討を行うのは、校名、校章、校歌、通学方法、通学路の安全確保のための対策、制服、体操服、通学かばん等の学校規定品、PTA組織、開校式等についてです。これまでに統合した学校では、課題ごとに部会を設け、検討を行っています。</p> <p>次に、閉校事業実行委員会については、現在の学校ごとに、地域、保護者、教育委員会、学校で、閉校事業について検討していきます。過去の例では、市が財政的な支援を行いながら、閉校式の実施、記念誌の作成などを行われています。</p> <p>最後に、学校運営協議会についてですが、先ほども説明しました通り、中学校区を単位として、1つの学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとすることを計画しています。</p> <p>長くなりましたが、以上で説明を終わります。</p> <p>この後、ご意見やご質問をお受けいたします。宜しくお願いいたします。</p> <p>4 質疑応答 19:00～</p> <p>教育委員会からの説明は以上になります。教育委員会事務局の説明に対して、質疑を受けたいと思います。</p> <p>いつもこういった説明会にできる限り参加させていただいているが、やっぱりいつも変わらず、提案されたものを、新設すると先ほども言いきられたが、決まったように説明されているだけで、市民との話し合いのように感じられない説明会だと思う。対話をするためにみなさん忙しい中ここに集まられているのに、そういった態度ではないと市教委は思う。PTA・育友会と何度も話し合いを重ねてこられたと言われていたが、そこでの意見だが、結構抽象的に何個か書かれているが、本当はそれぞれの学校で新設に反対という方がおられると思う。そういうことはあまり書かれていないように思う。アンケートを無作為に載せられているのではなくて、そちらの方で選ばれて載せられているように思う。その辺について聞かせてほしい。あと、PTA・育友会への説明よりも、市民の方へまずは対話をもつ会を開く方が、順番が逆ではないかと思う。前も長江の保護者として、地域としても長江の方に地域説明会に参加させていただいたが、その時も育友会にまとめられていて、意見は、今日はその質問はだめというふうに、一つの質問しかテーマを設けてできないように押さえつけられた。育友会は必要だと思</p>
--------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

小柳学校教育部長	<p>うが、そこを先にやって市民に説明だと、やはり意見を言いにくかったりだとか、そういう方もおられると思うので、やっぱり順番が逆だと思う。まずは市民への説明、もしくは同時に説明するべきだと思う。そこについてよろしくをお願いします。</p> <p>説明する順番等、ご意見をいただいた。私たちがこの提案をまずさせていただいた時に、やはり子供たちと直接当事者である保護者の方を最優先にしていく。これは保護者の方からも以前の仮校舎へ移転する時の説明の時に、保護者よりも先にマスコミに出てしまったということがあった。そういった反省を踏まえて、議会への説明の日と保護者への説明の日、いわゆる保護者の方と、議会、市民の方への提案を同じ日にさせていただいた。ですから、市民の方を後回しにしたということはあるだけ避けたかったわけなので、議会と同時に説明をさせていただいた。こういうふうには土堂地区の皆様も当然市民の方ではあるが、こういう対面での説明会が遅くなったことは本当に申し訳なく思っている。ただ、私たちの思いとすれば、保護者とのやりとりをいくらかさせていたうえで、ある程度保護者の方からご理解をいただいたうえで、市民、地域の方へ出向いて説明をさせていただきたいと思ってこういうふうにはさせていただいた。意見交換を重ねる中で、久保、長江、山波の保護者の方には、概ね私たちの提案内容については、ご理解をいただいているのではないかという感触は得ているが、一人一人のそういった細かなところまで私たちは十分把握しきれていないところがあるが、意見交換会の中では、PTAの代表の方は、そういったご意見をいただいている。</p>
住民2	それがだめなんです。意見を吸い上げていないPTAなので。
小柳学校教育部長	<p>いろんな進め方がある中で、私たちが意見交換会、保護者の方の代表の方と話をすることで、今こういった進め方を保護者の方とさせていただいたということ。土堂の保護者の方からも様々なご意見をいただいている。その中には賛否両論、当然ございますし、反対のご意見、土堂小学校の存続を願う意見、様々ないただいている。そういったものと今日のこの会とご意見を様々ないただく中で、今後の在り方についてしっかりと検討していきたいと思っている。</p> <p>アンケートについてでございますが、アンケートを様々な回答をいただいた。アンケートについては、全ての保護者の方から回答をいただくようお願いをさせていただいた。その中で提出されたアンケートが、263通、提出率は29%、そのうち記載のあったものは187通ということで、先ほどご説明させていただいた。187通の全員の意見をまとめさせていただいて、読ませていただいているが、それを大きくカテゴリーに分けたものが、先ほど説明させていただいた資料5になる。資料5を中心にしてQ&Aの形にまとめたものが資料4となるので、全員のがここに載ってはいないが、全員の意見を集約させていただいて、この100数項目ということでまとめさせていただいている。</p>

住民3	<p>教育長、あと数日で退任される予定です。次の教育長が3年以上、たぶんされると思うが、こういう説明会に出てこれられないのはどういうことか。それともう一点、今まで長々と説明を聞いていたが、どうも建物を先に建てる案があって、それに理屈をこねつけているように聞こえてくる。その辺どうなのか。</p>
川鯨教育総務部長	<p>まず、新教育長の件だが、新教育長の任期は4月1日からなので、まだ教育長ではない。ですから、4月1日以降に教育長が出る場面があれば、当然出席する。</p>
住民3	<p>予定者として出られないのか。</p>
川鯨教育総務部長	<p>今は、三原の小学校の校長先生ということになる。</p>
住民3	<p>予定者として出られないのか。</p>
川鯨教育総務部長	<p>はい。出られません。今日が出る立場にはない。先ほど施設の件だが、先ほど説明させていただいたのは、これまでの経緯という形で、耐震化というところから話が始まっているところを、一連の説明をさせていただいた。もちろん施設の話から入らせていただいた。施設的に耐震化できるのかどうなのかという中で、こういう経緯の中で、再編統合案を提示させていただいたという経緯について説明させていただいた。施設がありきということではないということをご理解いただきたい。</p>
住民3	<p>地震の話だが、これまで3.11もそうだし、イランの地震もそうだし、地震予知が当たった試しがない。それをネタに一生懸命耐震化だから校舎を変えるよ、人数が減ったから合併しよう、あなたがたは教育を種に人口を増やそうとかいう考えはまるでないのか。</p>
川鯨教育総務部長	<p>我々教育委員会としては、子供たちが一日の大半を過ごすこの学校施設、この安全をきちっと守っていく必要があるという中で、耐震化とか、土砂法の関係で特別警戒区域とか、こういった指定もされた。こういった状況の中で、まずは耐震化。さらには仮設校舎への早急な移転ということをお願いしてきた経緯があるので、当然教育委員会として、子供たちが過ごす学校の安全を考えることが、やはり我々としては一番の使命だと考える。</p>
住民3	<p>今の土堂小学校、千光寺の上に行って見られたか。もし帰り時に地震が起きたら、道路はみんな潰れる。助けに行けない。ここも卒業式、入学式、体育がある時にはここに降りてきてやっている。そんな状況を無理やり千光寺の山に連れて行って、もしそこで、あなた方の言うように地震が起こったら、どうやって助けるのか。ここの周りだったら、地域</p>

	の住民が助けに行ける。そういった考えはないのか。
住民 4	答弁者はマスクをはずしたらどうか。顔が見えない。全部顔を見せてしゃべってほしい。もう緩和されているし、ここはうつってもいいから。コロナもうつっていいから、全部マスクをはずしてほしい。顔を見せて。
教育長	どうしてそういう無用な議論になる。
住民 4	議論ではない。お願い。顔を全部見せてからしゃべってほしい。
教育長	一旦はずして。顔が分かればよろしいのか。一旦はずして。
住民 4	しゃべる時にははずせばいい。
教育長	それは関係ない。一応みんなはずして顔を見てもらおう。その上でしゃべる時には・・・。
住民 4	やっぱり顔を見ないと分からない。
教育長	いいですか。
住民 4	いやいや。
教育長	そういう無用な話は、議論、今日の説明の部分を・・・。
住民 4	全員の顔を見たい。答弁されている方の。国会でもはずしているではないか。違うか。
教育長	それとこれとは別の話だと思うが。
小柳学校教育部長	<p>すみません。私たちがマスクをしているのは、市の職員の規定、対面で接客等をする時にはマスクの着用を今でも義務付けられていますので、市の職員の規定に則ってさせていただいている。それと、マスクは緩和されているが、されるかされないかというところは、当人の意思に任されていると思うので、今日会場におられる方もそれぞれの意思で行動されていると思うので、それは強制されるべきものではないと思うので、ご理解いただきたい。</p> <p>それと、先ほどの子供の安全対策についてだが、これは仮校舎に移転する時に、千光寺に上がる時に、地震対策については、大きく保護者の方からも不安の声をいただいた。それについて、まずは校舎の耐震化ということで、校舎の安全性はある程度は保たれたと思うが、道中の問題がある。その問題と言うのは、なかなか解決できてはいないが、各方面と連携をとる中で、その状況によるが、速やかな初動体制がとれるようなお願いを各方面にしているし、教育委員会も子供の安全対策について</p>

<p>住民5</p>	<p>は、万全とは言えないが、とってきたつもり。そういったご不安もあるので、私たちは仮校舎に移転する時に、令和7年度、仮校舎は4年間と言うことで、令和7年度に向けて、新たな提案をさせていただくと言うことで、そういう約束をして移っていただいたという経緯もあるので、この度、こういう提案をさせていただいた。この新しい学校に移転することによって、千光寺での不安を早期に解決させていただきたいという思いも持ちながら提案をさせていただいている。</p> <p>私は、母、私、子供、3代にわたって、長江通りを中学校へ通った。あの長江通りがいかにか危険な通りであるかよく知っている。私が見ている前で、今おっしゃっている北側から下りてくる車、当時はまだ一方通行ではなかったが、北側から下りてくる車が居眠り運転で、家の中につっこんだ。もう絶対脳裏から離れない。私の娘が長江中学校に通っていた時代は、学校から帰る時に、バスが後退するのに、やはり狭いので、雨降りの日は傘がバスに当たる。傘の骨が何本も折れた。そういう狭い車道と歩道が一緒くたになっている、子供たちが歩いて列をなしていくとしても、歩道が確保されていない道をどうやって安全だと言えるのか。それにまして北高生の自転車、すごくマナーが悪い。これは昔から言われていること。小学校の1年生、2年生、3年生、低学年の6歳、7歳、8歳くらいの子供が、あの道をまっすぐに歩いていけるとは思わない。子供たちは遊びながら歩く。急に横に行く。本当にこわい道路。歩道が確保されていない。それが一番の私の不安。これから私の孫が令和9年に1年生に上がる。土堂小学校がなくなっていたら、あの道を歩いて長江中学校のあるところまで行かないといけな。6歳か7歳になっていると思う。歩道が確保されていない道をそういう子供たちに歩いて学校へ通学させることがどんなに怖いことかよく知っている。その辺について、どのように考えているか。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>長江通りの安全対策については、2月5日の保護者説明会でも何人の方からもいただいたし、これまでも育友会・PTAとの意見交換会の中でも出ている。私どもの方も、長江小学校が現在行っている対策が、やはり3小統合した時の基準、基本になっていると思う。長江小学校の今3分の2の児童が、長江通りを徒歩通学している。その子供たちは、保護者や地域の見守りに支えられたり、子供たちが一列で自主的に危険な場所等も児童会が中心となって危機回避の方法も学びながら、先生、教師の指導もあるが、そういったものを地域、保護者を挙げて、安全対策をしている実態がある。それと私たち行政としましても道を拡幅することはなかなかできないが、今ある道路の中でこれ以上の安全対策はできないかということで、横断歩道の引き直しや、外側線が見えにくくなっている所を直したり、先ほど説明にあったグリーンベルト、両方にグリーンのラインを引いていくことを、まだ一部しかできていないが、そういったものを県にお願いしていきながら、少しでも子供たちが安全に登校できる環境を今整えているところ。再度、この3月から4月にかけて、各学校にも安全対策、土堂がもし長江に来られるのであれば、祇園橋からが校区になるので、こういった経路で長江中のところ</p>

<p>住民 6</p>	<p>まで行くのか、また久保小の方であれば、尾崎、尾道大橋の下のところくらいからが校区なので、そういった場合には、どういった経路をとって通学するのがいいのか、私も直接歩いてみたりしているが、そういったことを学校と教育委員会が連携とらせていただいて、危険箇所も抽出しながら、安全・安心な通学路対策を少しずつ進めていきたいと動いている。ただ、こうやったら絶対安心だということまではなかなかないが、これについては、少しでも保護者や地域の方の不安を払拭できるように、これは最大の課題だと思っているので、全力で取り組んでいきたいと思っている。</p> <p>説明ありがとうございます。今長江小学校がそういう実績があるからとおっしゃっている。私の娘は長江中学校に徒歩で通っている。今の状況で、非常に危険であると認識しているから、これほどの保護者がこの通学状態がよくないと申し上げているにもかかわらず、今の状態を維持するという回答をされている時点で、これは危ないんだ、そんな所に通わせるのは危ないではないかと申し上げている。今の回答が正式回答ということによろしいか。今の状態であれば危険であると申し上げているが、今成立しているからその状態で大丈夫だという回答をいただいた。今のところ事故があまり起きていないということもあるのかもしれないが、今先ほど最前列の方が申し上げたように、今の状態が危険だからよくないと言っている、これだけの意見があって、今部長様の方でそれを受け止めたとおっしゃっているのに、変えないとおっしゃっているのだが、その状態の通学を維持させる状態で、今計画が動いているのか。そして、議会に建築と申し上げた後で検討する計画になっている。今のところ通学の安全策は令和5年度の後半になっている。安全確保してから建てないとだめなのではないか。建ててから安全確保するのではなくて、安全じゃないから危ないと申し上げているのに、建てて作ることを大前提にして、その後でなんとか安全をとおっしゃっているが、おっしゃっている安全というのは、地域の人がなんとか守っている、それから教員の人にだって、毎朝管理する、そういうふうに他の人たちが一生懸命サポートして、ぎりぎりやっているところをスタンダードでやるとおっしゃっているところが、非常に不安ですが、今の私の指摘に対して回答してもらいたい。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>言われることはよく理解できる。ただ、これまでも長江通りの危険性は当然指摘されている。これまでも長江小学校を中心に点検等をしていただきながら、私たちも道路管理者等に様々な要望、要求をさせていただいた。ですから、これまで何もしていないということではなくて、当然長江小の子供は現に通っているわけですので、安全対策や安全指導は教育委員会としてもやっている。今回提案させていただいたことで、通学児童数が増えることもあるので、より一層今の長江小学校の地域や保護者の方からも知恵を借りながら、どういった安全対策をさらに加えてできるのかということは今、学校とも保護者とも話をさせていただいている。今後、皆様にどのくらい安全ですよということが言えるかは未知数ではあるが、子供たちの安全のためには、最大限、対策をで</p>

住民 6	<p>きる限りさせていただきたい。</p> <p>今安全と申し上げたが、学校を移転させることの大前提が安全だと言っているのに、今これだけ安全ではない、一年に250日くらいあそこを行ったり来たりする、そのリスクの方が圧倒的に高いにも関わらず、それが後回しなのか。それをまず決めてから建てましょうとか、変わらしましょうという話にしないと保護者側から申し上げている。検討しますではなく、それをやったうえで進めないといけないのではないか。</p>
小柳学校教育部長	<p>学校をつくることがありきではないということは先程から申し上げているところ。安全対策については、当然課題だということは認識している。ただ私たちが提案させていただいているのは、令和7年4月に向けて、仮校舎の状況を一刻も早く解消し、子供たちの学ぶ場について整理をさせていただきたいということと、学校規模の確保ということで、これまで各地域、学校再編させていただいたが、ある一定の規模、2学級以上が当教育委員会は望ましいと認識し、各方面再編させていただいている。その学校規模の確保と令和7年4月という皆様方との約束を踏まえて、今回3小学校の統合案、小中一貫教育校の提案をさせていただいている。通学路は大事だが、通学路のことのみを考えて提案しているわけではないということも、これまでの経緯とか約束も踏まえて提案させていただいているということは、また回答になっていないと言われるかもしれないが、そこはご理解いただきたいと思います。</p>
住民 7	<p>るる説明をされた。要するに時間もあまりかかっていけないので、土堂の学区に説明に来られた。その前に土堂町民にアンケートが配られて、過半数以上の人たちが回答して、その8割近くが反対だった。統合に。土堂、ここでの存続を求めた意見が8割近くを占めていたということはお存知だと思うが。この土堂地区の意向をどのように捉えているか。2つ目は、あなた方の教育委員会の機関である学校運営協議会が、統合に対して要望を出された。教育長が受けているから知っていると思うが。これはどういうふうな受け止めておられるのか。3点目は、あなた方も先ほどコミュニティ・スクールについて説明された。地域との連携を重視するんだと。そういうことであれば、保護者の説明と同時に地域に説明してこそコミュニティ・スクールではないか。それは他の学校とは違いがある。久保小学校や長江小学校はコミュニティ・スクールではないと理解しているが。土堂はコミュニティ・スクールだと。ということであれば、他の学校の説明とは違って保護者に説明されると同時に地域にもコミュニティ・スクールとして説明されるのが筋ではないかと私は思う。その3点について聞かせてほしい。</p>
小柳学校教育部長	<p>3点ご質問いただいた。まず土堂地区の住民アンケートを指しておられるのだと思う。先般の3月20日に、土堂小学校の存続に関する要望書を学校運営協議会の会長名でいただいている。これに添付をされ</p>

	<p>てお持ちされたので、当然把握はしている。住民の意向、思いというのは、アンケートの数値でも見させていただいているし、その後、自由記載欄に寄せられた意見も何度も読み返しをさせていただいているし、ここに出席しているメンバーも当然把握して今日臨んでいる。こういった意見は、当然地域住民の方のそれぞれの思いなので、大事にしていけないといけないと思っている。それから、学校運営協議会の要望については、これも受け取っている。これはやはり学校運営協議会という学校運営に意見を言える立場の会が、要望書を私たちに提出されたということなので、皆様方の声として、大きく受け止めるというか、十分認識していかなければいけないと思っている。それから、土堂小学校はコミュニティ・スクールだが、今のところ2中4小の中では他の学校はコミュニティ・スクールとはなっていない。ですが、先ほど最初に質問された方にお答えしたように、まずは、コミュニティ・スクール、コミュニティ・スクールではないにかかわらず、保護者の方にお話をさせていただいたうえで、地域の方にということでしたので、なかなかこういうふう地域の方へ同時にというわけにはいかなかった。これについては、遅くなったことについては申し訳なかったと思う。ただ、私の方もこれも遅ればせではあるが、3月3日に行われた土堂小学校の学校運営協議会に出席させていただいて、詳しくはご説明できなかったが、いくらかお時間をいただいた中で、教育委員会の学校再編案をこれも遅ればせながらだが、説明させていただいた。今のようなことで、3点お答えさせていただく。</p>
住民7	<p>先ほど通学のことをるる話されて、本当に子供さんをもつ親御さんの気持ちだと思う。アンケートの意見をみなさん読んだということだが、そこに書いてあるのは、通学の心配をはじめとして、いろんなことが書かれていて、そういう問題を町民はいろいろ考えていてアンケートに答えて、繰り返すが、半数の町内の方々が統合には同意できない、この地での土堂の存続を願いたいという意見。要するにいろんな問題をその人なりに考えて、統合はよくないよ、現地での存続を願うよ。こういう住民の方々に応えるのが、あなたたち行政の役割というか、仕事ではないか。一応計画は立ったと、しかし計画について、地域の方々の多くは、それは課題よと、一つ確認するが、今日こういうふう集まって説明された。説明したんだからいいよ、今の計画のままでいいよと思っておられるのか、先ほど説明された、ここから出てくる意見も踏まえてアンケートで紹介されたいろんな意見、そして過半数の方々から回答が寄せられて、その8割の方が反対だと、統合には反対、あなた方が説明された統合には異を唱えていると、これに対して検討するということが中身は分からないが、計画を変更すると、あるいは見直すということもあるのか。そのことをはっきり教えてほしい。</p>
小柳学校教育部長	<p>現時点で、私たちとすれば見直しは考えていないが、今後の各地域をこれから回らせていただくので、やはり地域の反応、ご意見は真摯にお聞きしていかないといけないと思っている。私たちとしては、一番大事にしたいことは、2中学校区の一体感の醸成というところに重きを置</p>

<p>住民 8</p>	<p>いている。ですから、例えば3つの小学校は賛成、土堂は反対ではなくて、どの地域も私たちの案にご理解をしていただき、みんなで新しい学校を創っていこうという意識になっていただくような説明を繰り返し行っていくことが今は大切だと思っている。</p> <p>先程から聞いているが、これまでの取組ということで平成26年、27年、この時には耐震設計で新しい方法が見つかったというふうに説明があった。併せて、その時に設計図とか予算案とかができていたのか知りたい。それと、その時にさあ耐震やるぞという雰囲気教育委員会からも感じ取っていた。ところが、この時に市役所立て替えの話が出てきた。それで、私は、「市役所建て替えの前に3小学校の耐震が先でしょ。」と言ったら、その当時の答弁が、「市役所やらせてくれ。終わったらすぐ耐震化やるから。」というふうに聞いていた。ところが、それが終わってしまったらどうなるかという、今のようにこの長江小学校は車が入らない、あるいは、特別警戒地域だとか、そういうふうなできないことをどんどんどんどんつめていった。その私が聞いた特別警戒地域10m1500万でできる。市のお金から見るとすごく安くできる。土堂小学校も参考にどうなんですかと聞いたら、それはすぐできますというような答えも当時いただいた。これが、市役所ができた後、さあやるのかと思ったら、今度はこういうふうな3校統合というふうに変わってきた。これはどういう力が働いたのか。そこを教えてください。</p>
<p>末國庶務課長</p>	<p>まず平成26年の耐震化の設計については、設計はやったが、その後の予算はついていない。その時点で、設計はできたものの、そのことが実際に現地で実施できるか検討した結果、難しいということだった。</p>
<p>住民 8</p>	<p>私は当然聞いていない。その当時、設計図ができていると。私は実は設計図を見た。これならいい方法だなということで、それは地域にそれぞれ学校があつて欲しいと要望があつたわけなので、そういうふうにするべきだった。それをやっていたら、今こういう問題は起きていない。なぜそれを無理やり、先ほどから子供たちが祇園橋から長江通りを通っていくのは危険、その危険をグリーンラインを引いたからできたということでは絶対ない。その長江の裏通りもあるが、今過疎化になって空き家が多いので非常に危険。そういうこともあつて、どういう方法でやるかどうかということも実は非常に興味をもって見てきたが、まずは聞きたいのは、なぜこの耐震化がこのような方法に変わったのか、具体的な意図があれば聞かせていただきたい。</p>
<p>末國庶務課長</p>	<p>まずは平成26年度の耐震化の話から順に話をさせていただく。平成26年度の耐震化は、先ほど申し上げたとおり、現実的には居ながら施工ができないということで、子供たちが学校で学びながら工事するというのが、検討した結果できないということが判明したので、平成26年度の設計については流れてしまったということになる。その後平成29年度、再度、別の方法を使えば、なんとかうまくいくのではないかとということで、平成29年度にもう一度改めて設計し直し、別の方</p>

	<p>法を試した。最終的にそちらの方も居ながら施工が困難であるという結論になり、そちらの方もそのまま実施することができないということで、緊急的に安全を確保することが最優先だということで仮校舎の方に移っていただいたという経過。</p>
住民 8	<p>今、子供たちが学校に居ながら耐震化できないからというふうな話もあるが、やる気があるなら、今、千光寺の土堂も長江も久保も別の所にあるのにやろうとする気はなかったのか。</p>
末國庶務課長	<p>今ならできるのではないかというご指摘があったが、当然仮校舎を整備させていただいて、それぞれ学校が仮校舎に移っていただいているので、現実的にできるのかできないのかということであると、技術的にはもちろんできる状況。ただ、今後の学校の在り方を改めて再検討、実際に安全確保させていただいたところで、学校の在り方をどうすべきかということで、改めて立ち止まって検討させていただいて、今回提示させていただいているところ。</p>
住民 8	<p>今言われたが、今度長江中学校に小学校を建てる。久保中学校に中学校を建てる。予算が64億。これだけあったら何でもできるのではないか。そう思わないか。</p>
末國庶務課長	<p>議員説明会等で市教委がいくらぐらいかかるだろうかという質問をいただいたので、概算予算で64億円と提示させていただいている。実際にはまだ設計していない数字で、今までの実際に建物を建て替えた実績、例えば向島中学校とか、実際に建物を建て替えた実績があるので、実績があるものを基にさせていただいて、それから物価の高騰率というようなもの、1.8倍かけさせていただいている、荒く算出させているもの。それが2校分なので、小学校と中学校、普通に今の、従来の試算であれば、概ね1校20億程度の試算になると思うが、それを1.8を乗じさせていただいた。近年物価が上がっているのです、そういった形で試算をさせていただいている。</p>
住民 8	<p>今の答弁は、全く答弁になっていない。これで時間をとっても仕方ないので、3校の統合、どの地区が望んでいるか。望んだ地区があるか。教育委員会それやってくれと。私たちの耳には入っていない。それをなぜ強引にやっていくのか。その姿勢が見えない。理由が分からないというのがある。それについて説明があれば。</p>
小柳学校教育部長	<p>今回の統合案について、どこの地区が望んでいるのかというのは、そういった要望等はこれまでないが、やはり学校再編の問題については、教育委員会が責任をもって提示、提案させていただくものだと思っている。今回私たちの責任において提案させていただいたもの。また、これを強引にやっていくというようなご指摘をいただいたが、私たちとすれば、先ほど申し上げたが、新しい学校を提案をさせていただいて、保護者の方、それから地域住民の皆様に、新しい学校についてご理解い</p>

<p>住民 8</p>	<p>ただいて、この2中学校区の一体感を醸成し、新しい学校をみんなで創ろうという機運をできるだけ早期に高めていきたいと思っている。ですから、私たちとすれば、できるだけ丁寧に皆様方からご理解いただけるよう、こういうような場も地域の方に理解をいただいて、設定しながら、対話も意見も聞かせていただくということをしていっているところ。</p> <p>今言われたように、これは提案ではなくて、こうやるよ、だまってついてこいというように聞こえる。それと、できない耐震化ができないという理由が急に出てきた。急傾斜地だと。分かっていること。昔からあるので。今長江中学校にもある。あるいは道路が狭いから入らないと。長江小学校でも大規模改修をやっているから。車は入っている。そういうのは理由にならない。それをあたかもそうなんだということで、みんなを説得させようとする。その姿勢もいかななものだと思う。もっともっと本当に子供のことを考えてやっているのか。100年にいっぺんの事業。100年後、誰がこんなことをやったのかということを追われることがあるかもしれない。そういうことがないように、みなさんの意見を聞きながら、こういうふうにせいかくの場をもったのだから、みなさんの意見を聞き入れて、どういうふうにするかということをもう一回白紙にして考えていくのも一つの方法ではないかと思う。</p>
<p>住民 9</p>	<p>私は、善良で真面目な一住民の素朴な質問をまず2つさせていただきたい。私たち住民にとっては、こういう情報を得られるのは新聞。オンラインとかあるが、それはみんな持っているわけではない。一番広く行き渡っているのは新聞だと思う。私が知ったのは、まず19年に学校統合するのを撤回されて以降、22年、去年の暮れに新たな提案が出た。まず小学校3校を統合する。さらに加えて中学校2校を統合する。さらには小中一貫校にする。こういう提案だったわけ。おいおいおい、なんだこれかと思って、今日説明会があるというので、来させていただいた。それで、よく分かった。よく分かった内容というのは、この尾道教育の新しい風の4ページ。ここに将来の学校の在り方について検討を始める。それも令和3年9月、1年半も経っていない。そこから始められた。そして検討にあたっての考え方が3つ。そして、その検討結果が、小中一貫校。すごいですね。3つの検討にあたっての考え方は、教育的にどういう一番核になることがあってされたのかということは書いていない。書いてあるとすれば、3つ目のところで、教育環境を確保するために、1学年複数学級を掲げるということを書いてある。1学年複数学級を掲げるということがよりよい教育環境を確保するということなのか。これはどうなのか。まずお答えください。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>尾道市教育委員会においては、これまでも因島地域や瀬戸田、それから最近で言いますと、北部地域・・・。</p>
<p>住民 9</p>	<p>短くていい。複数学級にすることが、よりよい環境を確保することになるかということをお答えください。</p>

小柳学校教育部長	それは、複数学級を目指して、これまで学校再編をさせていただいてきたので・・・。
住民9	複数学級でないとよりよい環境ではないということか。1学級では駄目だということか。
小柳学校教育部長	そういうことを言っているわけではない。1学級でも当然いい教育ができると思うが、よりよい教育環境を目指していくためには、やはり複数学級で子供たちが学び合う環境を整備した方がいいと思っている。
住民9	分かりました。それで、検討結果、小中一貫校になるわけ。検討にあたっての考え方が、ここに書いてある3つが基になって、いきなり小中一貫校になるわけですね。よく理解できない。小中一貫校については、下に書いてある文科省からの11ページ。文科省からのものを参照にして、尾道が目指す小中一貫校がある。参照にしてこれを書かれた。これが尾道スタンダードとして、こういうふうな形で小中一貫校やろうということ。これは目玉はどれか。
小柳学校教育部長	小中一貫教育校を提案させていただいているが、小中一貫教育校というのは、小学校中学校9年間を一体的に捉えるということなので、一番いいところは、学校教育目標が一つになるということなので、学校は敷地は違っても、学校教育目標以下全ての学校における運営の規程が統一されるところが、一番の大きなメリットだと・・・。
住民9	それは、尾道だけか。
小柳学校教育部長	それは小中一貫教育校がということか。
住民9	小中一貫校の一般論。それは。
小柳学校教育部長	一般論だが、小中一貫教育校が望ましいと思って導入されている自治体においては、私たちと同様の考えで導入されていると認識している。
住民9	分かりました。それで、その一貫校の統一したものを基にして、尾道スタンダードとしてやっていこうとする、その目玉を教えてください。どこでやっても同じではないか。この尾道スタンダードは。
住民10	言わせてください。まさにそう。全然新しくない。
住民9	どこでもやっている。

住民10	<p>どこでもやっていることをなぜわざわざ新しい建物にする時に、文科省がこれは平成28年となっているが、出たのは平成20年くらいからやっていることで、これをもって何にも目新しくない。せっかく新しい建物を造ろうと思うんだったら、中身をもっと新しいものにするのではないか。少なくとも土堂小学校で教科はどうか分からないが、陰山先生がやってらしたことは、あれが文科省に発信されて、あれが確かな学力とか、基礎力、表現力とかというのがあるわけで、それらが・・・実態。あまりにも抽象的、機能的すぎて、もっと実態的な学力のあるものを出してほしいと思う。</p>
住民9	<p>尾道スタンダードについては、あまり新しくないと思ってお聞きしたが、適切な回答をいただけなかったことは残念。それと、市内全体へということが書いてある。今後、市内全体も小中一貫校ということで動くということか。イエスカノーで。</p>
小柳学校教育部長	<p>イエスカノーという、単純にはお答えできないが、今後新しい学校をつくっていくということも当然平成23年12月の学校再編の計画の中には、今は中期計画なので、今後の計画がそこには記載されている。そういった学校の統合・再編にあたっては、今回提案させていただいていく学校をスタンダードとして、市内全体に広げていく。それは前提として小中一貫教育校、小学校と中学校が一体となった9年間で子供を育てていくということをスタンダードに尾道市の教育は創り上げていきたいということを思っている。</p>
住民9	<p>将来的には小中一貫校にしていくということか。それを聞いている。それと、最後、今後のこの会だが、説明会を保護者に2回、それと地域住民にも2回やっていくということで、どちらとも1回終わった。あと1回ずつなので、それでも準備委員会とかに入っていくのか。オンラインで説明して、そして、育友会等の説明会があったと言われたが、地域住民や保護者への説明会が2回ずつやると書いてあった。1回ずつ終わった。今後あと1回ずつでこれで終わりか、説明は。それはどうか。</p>
小柳学校教育部長	<p>今後の保護者との話については、また育友会・PTAの代表の方と意見交換会をさせていただく中で考えていきたい。</p>
住民9	<p>考えていきたいと思うでなくて、予定とか計画があるでしょ。こんな大事なことをやっているのに。</p>
小柳学校教育部長	<p>それはこちら側では予定はあるが、それは当然やっていくべきものだと考えている。地域住民説明会については、一回目をこのようにさせていただいて、来週は、先ほど申しましたが、他の3小学校を回らせていただくので、皆様の反応やご意見をまた精査をさせていただいて、今後の説明会の在り方については、また地域の代表の方を窓口になっていただいているので、そういった方ともご相談させていただきながら、</p>

	進めるべきものだと考えている。
住民 9	説明会の在り方を変えて今後続けていくということか。何回くらい予定されているのか。
小柳学校教育部長	今の段階では、回数については、まだ分からない。
住民 9	そんな展望のないことで、9月からもうやるのか。23年度に準備委員会をやるんですよね。9月に、そちらの考えでは。説明会できちんとしたことが明らかにならないままに、先ほどからみなさんおっしゃっているように、もう進めるということか。やっていくのか。いいのか、みなさん。どうなのか。
教育長	住民説明会の関係、回数等は決めておりませんと言うのが、やっぱり地域によって温度差があるのだろう。そのことをこの3月の説明を受けて、意見交換する中で、我々も把握していくというのが、先ほどの説明だった。今日、みなさん方、ほとんどが土堂小学校の存続を願って、今日この場におられるというふうに思う。もちろん賛成の方もおられる。いろいろな意見を、我々は理解を得て、合意を得て進めていきたいという思いがある。それは新しい教育長も同じだと思う。そういうことなので、いったんは一回通りは説明会をさせていただいて、状況を把握し、その内容は育友会の方にも情報提供していかなくてはいけない。そういう経過も見ながら、みなさんの合意をいただける形で進めていきたいと思う。でも、最後は全員が合意をいただけるのが理想だが、それはまだ分からない話なので、十分議論をさせてほしい。
住民 9	なるべく分かり合えるまで何回でもやりますくらいのことでは言ったらどうか。
教育長	全員の方に分かり合えるという努力はする。
住民 9	それはいい。それはいいが・・・。
教育長	全部白と黒で固めるような言い方はやめてやってもらえるか。我々は一生懸命努力して、みなさんの理解を得られるよう取り組んでいく。
住民 1 1	前、この場で合意形成、一人でも反対がいたら進めないと佐藤さんは言われていますよ。録音されている方もおられる。
教育長	一人までもという言い方をした覚えはない。
住民 1 1	一人でも反対がいたら進めることはありませんということをおっしゃっている。

教育長	できるだけそれを努力をするのが我々の立場。でも100%みなさんが、全ての方が同じ一つの考え方で。
住民12	住民の80%は反対なのではないか。
教育長	いえ違う。住民のうちの52%がアンケートに回答されて、そのうちのおよそ8割が反対の意思表示をされた。住民の52%の方がアンケートに答えているだけ。48%の方は、賛成か反対かは分からない。
住民12	それは賛成なのか。
教育長	それは分からない。みなさんがそれを反対のように言われるので、それは分からないが、ここで明らかになっているのは、そういう状況だということ。
住民13	私は、一人でも反対がいたらやらないですよ、というふうなことを言った覚えもないし、そういうふうになろうとは思わない。だけど、子供たちのことを考えたら、本当にどういうことが一番いいのか、保護者もみんな思っているわけだ。だからそのことももっと誠意をもって受け止めて、よりよい、より少しでもよくなるような努力をお互いにしていないといけないと思う。
教育長	それはそう。
住民13	そのために教育委員会は、誠意ある回答を望む。
教育委員会事務局(司会)	<p>時間が来ておりますので、質問される方の人数を把握させてもらってもよいか。挙手をお願いする。時間もあるので、1回質問をされた方は、再度の質問は・・・。</p> <p>(「それはおかしい。何回してもよい。」との声。)</p> <p>広く意見を聞いていきたいので、今回はちょっと・・・。</p> <p>(「それがおかしい。」との声。)</p> <p>もう受けないということではないので。新しい方の質問をお受けします。</p>
住民14	地域対象説明会とあるが、地域の者ではないが、すみません。向島から来た。向島なので関係ない、地域のエゴだと言われるかもしれないが、これは私たちの税金を使われることですし、身の周りに子育てをされている方、知り合いに土堂小に通っている子もいるので、私たちの問題でもあるなと思ってご意見させていただいている。相模原市の教育委員会で、統廃合した後の学校をどういうふうに活用するかというア

アドバイザーをやらせていただいたことがある。ちなみに先に言うと、そういうわけで地域の者ではないので、土堂小学校に特に深い思い入れもあるわけではないし、ノスタルジーもない立場、私は。そういう客観的な立場というところからのご意見として、そのアドバイザーをやらせていただいた中で、地域経済的に統廃合した地域は必ず衰退する。そして、子育てをしやすい町、そして人口問題について、市がくれるならば、この受け皿になる小学校を削るということは、やっていることが矛盾していると思う。なので、もしそれを謳うのであれば、子育てしにくい町、子育てに優しくない町だと、自分たちは、でもしょうがないんだ、しかしこれしか選択肢がない尾道市ですというふうに尾道市政には言っていたきたい。でないと、両方言うのは、ちょっとおかしいと思う。それから、私の義理の弟が、耐震工事の専門家。国家公務員。国家試験を受けて、そういうふうになっている。彼にこの土堂小を見ていただいたら、パッと簡単に見て、「耐震化できます。」というふうに言いました。彼、たくさん建物を建てているというか、設計している。先程、できるけど無理だったとおっしゃったが、一体何人の専門家に見てもらってそういう答えになっているのかなというのを後で教えてほしい。そして、そういう耐震化できるプロに巡り合う努力をしたのかを聞きたい。これは、先ほど私が税金ということを行ったが、何十億円という多大なる私たちの血税ですから、ここはもう少しシビアに考えていただきたいと思う。それから相模原市でも通学路の問題がたくさん出た。実は、非常に広い国道の所でさえも、子供が歩く所が、20mくらいのところでも大規模になっていた。相模原市、比較してもいろいろな市の考えがあるのも存じ上げている。ただ、もうちょっと市民の話を聞いている。先ほどから話を聞いていると、学校教育部長はもう変えることはないというふうに言われて、説明会でご意見を伺いたいと言っているが、地域のみなさんに私が説明会を聞いて、まず私が言いたいのは、彼は聞く気がないし、説明会と言っても、みなさんの意見を聞く気はない。客観的に見て分かった。ただ、教育部長さん、罪悪感を感じないか。市民の意見をもうちょっと人間ならば、もう少し真摯に聞いて、もうちょっと心を通わせるといふふうに努力をしていただきたいが、この期待も無駄なのか。それで、毎日寝れるというのが不思議。人としてどうなのかと思う。もうちょっと人間らしく答えてほしい。ロボットじゃないと思うので。ということが一つ。あと、先程も通学路の問題も申し上げたが、私は正直関東から引っ越してきた。長江通りを見て、日本でワースト、もうトップに入るんじゃないのというくらい非常に危ない道だと思う。通学路部分ではないと思う。先ほど教育部長さん、よりよい教育環境とおっしゃいましたが、それは教育の中身のことを言われたのかもしれないが、ならば、よりよい話し合いにもっていくように努めること。それからよりよい通学路をきちんと毎日のことなので、確保する。そういう努力をする気はないのか。気持ちをちゃんと聞かせてほしい。長くてすみません。

末國庶務課長

まず、耐震化の検討をどのように進めたかという質問がありましたので、お答えさせてもらおう。耐震化の設計を行っていますので、もちろ

	<p>ん技術的に耐震化はできる。ただ、実際に学校を運用、運営しながら耐震化を進めるということについて、事実上難しかったということで、それを断念した経過がある。ですから、2度設計をさせていただいている2度とも、耐震化の設計図はできておりますが、それが、実際に学校を回しながらそれを措置できるかという検討で、そこができなかったということ。</p> <p>（「今ならできる、おかしいよ。」との声あり。）</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>今、現に千光寺の仮校舎に移転しておりまして、その間、旧土堂小学校の校舎で勉強していないわけですから、先ほど言いましたように、ご指摘のように、やるということであればできるということであるかもしれない。ただ、冒頭でスライドを使いながら説明した。その中で、今回の考え方3つを示させていただいて、やはり、皆様も子供たちのことで、通学路のご心配であるとか、様々なご心配を、それは深く受け止めたいと思う。ただ、我々も子供たちの将来であるとか、学習環境ということを考えて時に、説明しましたとおり、このまま児童推計が、令和10年度には1年生が3名と、これは本当に子供たちにとって、最初にデジタル機器の活用のご提案をいただいた。ただ、それが本当に、3名で学ぶというのが、子供たちの学習環境にしてよいのかどうかということをおこの機会に考えさせていただいた。ということで、ちょっと抽象的になるかもしれないが、そういった観点も含めながら、今回のご提案を差し上げたということだ。</p>
<p>住民15</p>	<p>3名でもできると思う。</p>
<p>住民16</p>	<p>3人で少ない学級で学んだ子供が偏差値が少ないというのは、私は偏差値が全てじゃないと思うが、東大生も京大生も1クラスしかなかったり、地方から来ている子がいる。学習レベルが低いということか。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>まず、私に対して批判といいますか、そういったご意見を伺ったが、それに対して少数ではありましたが、拍手を受けたことについては、ちょっと残念に思った。私も当然統合ありきという話でここに来たわけではない。皆様のご意見をしっかりと受けし、自分で答えられる精一杯の中身の答えをさせていただいているつもりですし、皆さんにこの統合案について、理解していただきたい思いで、今日ここに来させていただいたし、この案の立案から関わっているので、子供たちの学ぶ姿を思い描きながら、私も教育職出身ですから、小学校現場や中学校現場で実際に子供たちを教えてきた身ですから、やはり子供たちが、元気に生き生きと学ぶ姿を想像させていただきながら、ここに立っているところ。先ほど、少人数での偏差値というのがあったが、それについては、各学校のこれまでの歴史であるとか、いろんな子供たちの状況、そういったものがあるので、一概に少人数の偏差値が高い、低い、中規模校、大規模校だから低い、高いということについては、それは言えないのではないかと思います。</p>

住民 1 7	<p>先程の方が、非常にきついことを話されていたので、私は少し穏やかにいきたいと思う。私は24、5年前に、福山市の加茂町の広瀬学区という所で、子供を2人育てた。おそらく教育関係の方は、ご存知だと思うが、当時から複式学級で、小学校は、小学校と中学校が隣同士にあって、残念ながら今年度から小中一貫の学校に変わるが、それまではずっと複式学級だった。次男の時に1クラス6人だったかな。テニス部で全国大会にいった。小規模校で卒業したが、北海道大学に入った。だから、学力とか、環境というのは、規模が大きいからいいというのは全く思っていない。よろしくお願いします。</p>
住民 1 8	<p>せっかく少人数教育ができる環境になったのに、統廃合するなんて、馬鹿としか言いようがないと、先日尾道に来られた〇〇〇〇さんが言われていた。学校の統廃合というのは、時代の流れに逆行していると思ってもらっても差し支えないと思うし、〇〇〇〇さんというのは、人口減少とか、地域づくりとか、そういったところで活動されている方なので、いろんな地域を見られてのお言葉だと思う。ですから、統廃合をもう一度考え直していただけないか。考え直していただけないかという質問だと思ってほしい。</p>
小柳学校教育部長	<p>統廃合については、これまでも申し上げているとおり、平成23年12月の統廃合計画に基づいて、今、中期計画をいっているところ。ですから、この場で見直しをする、または撤回する、継続するといったものは、まずは継続ベースで、ここに来させていただいているわけなので、それを撤回する、見直すということはこの場では判断しかねるところ。</p>
住民 1 8	<p>ありがとうございます。ぜひ検討していただければと思う。時代は変わった。時代は変わったので、本当に新しい風をぜひ尾道に吹かせてほしい。</p>
住民 1 9	<p>話を伺って、一つ疑問に思って、これは聞いておかないといけないと思って。検討にあたっての考え方、安全性の確保、校舎の耐久性、適正な学校規模の確保ということで、こちらは当方の一番大きな考え方というふうにおっしゃっていたが、これは一応決定ですよというふうにおっしゃられた、土堂小学校には、新たな施設整備は行わない、土砂災害特別警戒区域のためというのは、これは教育委員会の判断、あるいは、権限内で決定されたことなのか、それとも広島県が決めていたり、文科省が決めていたり、あるいは尾道市の条例でこれができないとか、どこがネックになっているのかお聞きしておかなければいけないと思ったので、答えていただければと思う。</p>
末國庶務課長	<p>土砂災害の警戒区域、特別警戒区域に新たな公共施設を整備しないという方向性についてだが、これは条例等で何か決まっているということではないが、一般的に土砂災害警戒区域、特別警戒区域に指定されている箇所に、新たな施設を整備するということは、基本的にはいろいろ</p>

	<p>ろな対応をすれば可能性はあるわけだが、まず望ましくないというふうに考えた。</p>
住民19	<p>ありがとうございます。</p>
住民20	<p>先程来、学校の子供たちの安全、通学路、それから学校生活の時間の中で、安心・安全ということをお話をされた。ある意味本当にそうだと思う。それと、この検討にあたっての3つの柱の中の適正な、3番目。適正な学校規模の確保というのはハード面の話か、ソフト面の方か、答えてほしい。</p>
三浦学校経営企画課長	<p>3番目の適正な学校規模の確保というのは、先ほどもご説明しましたように、児童数でありますとか、生徒数、学級数ということなので、ソフトかハードかと言えばソフトの面になる。</p>
住民20	<p>はい、分かりました。学校選択制というと、現市長が教育長である時に実施した。土堂小学校はもちろん、その当時、学校選択制ということで、校区外の子供たちが、土堂小学校に通ってきた。年数を重ねて、当時の学校教職員、保護者、この地域、コミュニティ・スクールということで、みんなで一生懸命がんばった。その成果で評価されて、校区外から多くの子供たちが通えるようになった。この学校の統廃合の問題が出てから、学校選択制が、この3校でゼロになった。なぜか。そういうことを、もしそれが間違った施策だったのなら、きちっと反省会というか、反省の弁、どうしてそれをやめたのか、せっかく多くの子供が来て、先程来説明のあった、1学級になるじゃないか、そういうような話をされた。小学校の数字を。それは、現時点での居住者からくる数字。学校選択制はなぜ取り入れたのか。そういう大事なことを現市長が教育長の時代に作った。それを簡単に覆した。それについて何の説明もないではないか。それから、先ほど言ったように、3校統廃合の話が出た時に、それから学校選択制がなくなった。仮移転してから、とりあえず5名ずつにしましょうという話になった。なぜ5名なのか。最初に提案して、みんなで、じゃあそうしましょう。それでがんばりましょう。特に土堂小学校はコミュニティ・スクール。じゃあ地域みんなで応援してがんばりましょう。やったことは何だったのか。そのへんの見解をぜひ聞かせてもらいたい。</p>
小柳学校教育部長	<p>学校選択制度についての質問だったと思う。尾道市の学校選択制度は、平成16年度入学児童生徒から導入させていただいている。これについては、導入当時、保護者、児童生徒の多様なニーズに応えるでありますとか、学校の特色を強く理解していただいて、保護者の方や児童生徒が選択していただく、特色ある学校づくりの一環として取り入れられた制度。当時は、土堂小学校、長江小学校においては、40人枠ということで、募集させていただいて、政策として進めてきたわけだが、制度が15年経過した平成30年度あたりだが、その前くらいに、かなり地域コミュニティの衰退につながっているのではないかと、一部の</p>

学校に偏った少人数教育が行われているのではないかとということで、市議会の中でも、かなりのご批判を受けた。ただ、保護者の教育的ニーズも一定程度あったし、15年を経る中で、学校選択制度の理解は、市民の方からも得られているということで、平成30年度に、大学の先生にも入っていただいて、見直しをどのようにすればよいのかということで研究をさせていただいた。その結果、40人枠というのは撤廃して、どの学校も一律の5人、または10人枠で受入れという方向でさせていただく。これは教育委員会会議でも議決していただいて、市議会でも説明をさせていただいている。その後、この久保、長江、土堂小学校については、校舎の耐震性、子供たちの安全・安心が確保できないということで、学校選択制度を一時休止ということにさせていただいた。しかしながら、令和3年4月に久保、長江、そして、同年9月には土堂小学校が仮校舎に移転したことから、再度3小学校の学校選択制度をどのようにしたらいいのか、再度検討させていただいて、また、土堂、長江の保護者の方からも要望書もいただいた。そういったことも検討させていただいて、この3つの小学校が1つになった時に、2学級規模が維持できる範囲で、ということで検討させていただいて、この5名枠を決定させていただき、3小学校の保護者の方にもご説明させていただいて、また、教育委員会会議でも議決をいただいて、こういった5名枠ということで、今年度実施し、来年度入学生からということでさせていただいている。ですから、学校選択制度については、様々なご意見をこれまでも土堂小学校の保護者の方等からもいただいているが、今お話をさせていただいた経緯で、今の5名枠にたどり着いている。また、この30年度の時に、私たちも反省をさせていただいたが、子供たちを増やすというか、学級数を増やす目的での学校選択制度というのは、市内全体の教育のことを考えた場合に、説明ができないのではないかとということで、一律の10名枠、または5名枠ということで、今全ての学校で実施をさせていただいている。

住民20

例えば、土堂小、長江小の40人枠の時代は、抽選しないといけなほど、集まった。ぜひあの学校に子供を通わせたい。そういう保護者の思いが多かったのではないか。それはなぜでしょう。それを学校が、ぜひ我が子を通わせたい、我が子にその教育を受けさせたい、そういう思いがあったから、越境までして通わせたのではないか。その当時の子供は、すごく元気で、今の子供も元気だが、活発に生き生きとして、学業もスポーツも実績を出している。そういう学校。以前、学校の教育研究会の場に、私出させていただいたが、県外の先生から、「この学校をなくすんですか。私は、土堂小学校の勉強をしに前泊をしてまで来ているんですよ。」と強く言われた。私はびっくりした。「他県からわざわざ前泊までして、ここの尾道に、中でも土堂小学校に勉強しに来た。なぜか。」という。「私、分かりません。教育委員会に聞いてください。」と言った。それほど、県外の先生方、関係者が評価している。そういう教育文化をもっている場所をなくす。それはちょっと考えられない。ぜひご検討いただきたい。ぜひお願いしたい。

<p>住民 2 1</p>	<p>先日の保護者説明会にも参加させていただいたが、その時にも申し上げたが、私たち、保護者、子供含めて、千光寺グラウンドにまず上がることに納得していなかった。納得をしていない上で、申し訳ないけれど、上がらされたと思っている。であれば、子供たちは、下をその間に耐震をしてもらい、下りて来れると信じ、上がっている。耐震に問題があるので、上がって欲しいと言われ、バスの相談をさせてほしいと言われ、バスの相談が終わった後に、もう一度 上がる上がらないを検討されると思っていたが、それが終わったことにより、大筋で合意を得られたと思いますと言われ、上がることになった。していないが。耐震に問題があるという状況で上がったにも関わらず、今、子供たちが使っている体育館は耐震がされていない。そのことについて、教育長、どう思うか。落下防止はしたが、耐震はしていない。それは時間もかかるし、お金もかかるしできないと言われた。耐震に問題があるので上がってほしいと言われて上がり、今、耐震診断をされていない体育館で授業をしている。お金と時間がかかるからという理由でされないとされた。で、バスの相談をしている時に、申し訳ないが、先に上がってもらって、宿題にさせてもらっていいですかと言われたまま今1年半たっている。進捗状況を伺いたい。何かされたか。その間に。</p>
<p>末國庶務課長</p>	<p>今、土堂小学校の児童の方にご利用いただいている体育館、こちらの方は、勤労青少年ホームの体育館の方をご利用いただいている。こちらの施設の方は、ご指摘のとおり、耐震性のない建物であるので、応急措置として、落下防止対策等をさせていただいて、こういった入学式等の式典については、こちらの耐震化されている体育館の方でやる。そして、日常の運用については、今の勤労青少年ホームの方をご利用いただく。できるだけ人数を増やさないような形でやっていただくというような形でお願いしている。その後、どのような検討をしているかということだが、先程の話の中でもあったように、耐震診断していない建物なので、それを耐震診断して、さらに設計して、さらに工事をするというようなことについては、我々は現実的ではないというふうに思っている。なので、そのことについては、今、私どもができることについては、新しい学校の、今お示しさせていただいていることについて、お示しさせていただいて、令和7年度というようなことを当初からお示しさせていただいていたこともあるので、そういった部分も踏まえて、今回のご提案というふうになっているとご理解いただきたいと思う。</p>
<p>住民 2 1</p>	<p>理解することは難しいが、であれば、耐震をできない。まず、建てる前提ではないです。耐震はやるつもりだったんですとおっしゃったので、であれば、子供たちが上に上がっている間に、やはり耐震化すべきだったんじゃないかなと思っている。教育委員会の方は、皆さん、子供の安全を、子供の安全をとおっしゃるが、長江通りの安全対策をどうなっているか、先ほどの方が始めに質問されたが、それに対しての少しでも安全に過ごせるようにとか、今現状で危ないのは把握しているけれども、これ以上どうしようもないんだという返答であれば、子供を安全に通わせてあげることができないという判断しかできないと思う。</p>

<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>親としては。先程の回答だけで終わるのか。前回も感じたが、今、子供が通っている通学路なんだから、それをそのまま使おうと考えている。今、現状が危ないのに、危ないけど使っているから、そのまま使うよという聞こえ方をしたので、それが、この説明会でもし改善されていたりとかするのであればと思い、参加したが、正直、答えとしては、悪くなっているように感じる。できないということをはっきり言われたと感じたが、いかがか。</p>
	<p>通学路についてお答えする。当然、長江通りの安全性についてご不安があることは、我々も承知しているし、我々もあそこを実際に歩いたりして、状況については肌で感じているところ。その中で、先ほど説明にあったのが、今、長江小学校でされている交通安全に対する取組は、これは当然継続していくし、地域の方々のご協力いただいていることには、本当に感謝していきたいと思う。ただ、それに加えて、先ほども申し上げたが、一例としてグリーンライン、グリーンベルトのことを挙げたが、今後とも、より安全を確保できるために、どのような改善ができるかということ、あそこは県道になるので、県であるとか、警察であるとか、そういったところと協議をしながら、より改善については考えていきたいと考えている。</p>
<p>住民 2 1</p>	<p>ぜひ開校するのであれば、それまでに解決していただきたいと思う。うちの子が通うのは、6年生の1年間になるが、それでもこんなに心配している状況。1年生に入学させる親御さんのことを考えると、ちょっと今の現状では、通わせたいと思える学校になるとは思えない。あと、かなり前に戻るが、80年越した建物を使わない、警戒区域で新しく建てないとおっしゃっていたが、今後の尾道市を考えていくと、小学校だが、警戒区域に建っている小学校がたくさんあると思う。80年経った建物を使わないとおっしゃっているが、今だけのことではなく、これから先のことをもっとよく考えて行動していただきたいと思うが。今、ここで3小の統合だけの問題ではなく、もっと長い目で見て、全体のことを見て、考えていただきたいと思う。これから80年越していく建物、一番最初に80年越す建物は、どの学校なのか。順番に超えていくと思うが。</p>
<p>末國庶務課長</p>	<p>今すぐ次がどこかというところは、手元に資料はないが、少し、今使用していない土堂小学校の校舎、それから久保小学校の校舎については、80年を経過している。</p>
<p>住民 2 1</p>	<p>それは分かっている。それでこうしたいというのも分かっている。でも、今後のことを考えていくと、今尾道って、これは保護者の立場ではなく、地域の一人として、尾道市民としてだが、これから先私たちの税金が使われていくということを考えていくと、その先を見据えて計画を立てていただきたいとお願いしている。今だけのことではなくて。だから、久保小学校がとか、土堂小学校が80年超えていますという今の回答だが、説明の資料でいただいているので、そこは分かっているが、</p>

	<p>今後どの学校が80年を超えていって、建て替えないといけない学校が何校あって、その学校たちが警戒区域にあって、そこに建て替えられるのか、建て替えられないのか、全体を見て考えていただきたいと思います。現在、土堂小学校だが、警戒区域が大半の部分がかかっているという話だが、じゃあその時に、全体を見た時に、土堂小学校の現状が、他の学校よりもいいという考え方も出てくるのではないかと思います。これだけ通いやすい場所であって、しかも市街にあって、これから学校がなくなって、市民が減っていく、この市街地で、住民が減っていく、山の方で増えていくという計算になるのか。ごめんなさい。教育委員会と関係ない話かもしれないが、そこも考えて、教育委員会の枠だけではなく、大きな話でもっと考えていただけないかとお願いしている。80年経つか経たないかに関して、警戒区域に関しては、今日返事をいただきたいということではなくて、今後まだまだ話し合いが続いていくと思うので、それまでに用意していただければ結構。お願いできるか。</p>
<p>石川庶務課管理 係長</p>	<p>先ほどの建物の状況について補足する。正直、手元にはっきりした資料がないので、確定した数値は、また改めてお示しさせていただくが、久保小学校、土堂小学校の築80年を超えているというのは、昭和12年とか、昭和8年とか、その辺りの建物のことを示している。その次の古い校舎というのになると、昭和30年代の建物がある。ただ、今の学校がというのは分からないが、すぐに立て続けにこない状況ではあるが、もしその昭和30年の建物、これらに関しては、今改修をかけたか、栗原中は大規模改修を行ったが、我々としても施設の整備・改修を行って、80年まで持たせて使っていくのか、それとも建て替えていくのかといったところは、各学校で決定していく予定。その時に、当然キーワードになるのは、建て替えになる時には、今ある土砂災害の警戒区域や特別警戒区域内には建て替えを行わない。もしそういう敷地内にそういうところがあれば、建て替えができるでしょうし、そうでなければ今と同じ検討を他地区でも行うことになるのではないかと思います。</p>
<p>住民21</p>	<p>検討を進めていただくのを願います。前回の保護者説明会でもお願いしたが、千光寺グラウンドに上がることに、そもそも納得していないが、納得したかのように、今上がっている。前回のしまなみ交流館で、私、お話したが、「納得していないので、千光寺グラウンドに上がる時と同じようなことはぜひやめていただきたいです。」とお話したが、その説明会の後に、たぶん尾道新聞さんだったと思うが、保護者の理解を得られたかのように書いてあった。どなたがお話されたか分からないが。どなたか見られているか。教育委員会の方、どなたか見られていないか。尾道新聞の記事を教育委員会の方がどなたか見られたか。見られていますね。会を開いたことで、合意したのか。「してほしくないです。」とお願いして終わって、したかのように書いてあったので、してないのになど、ちょっと納得いかなかったのだが。</p>
<p>三浦学校経営企</p>	<p>今、ご指摘があった新聞の記事については、載ったということは承知</p>

画課長	<p>しているが、我々が2月5日のしまなみ交流館での説明会をもって、皆さんに我々の提案をご理解いただけたというふうには思っていない。今後も理解をしていただけるように努力していくという趣旨ではなかったのかなとは思いますが、ちょっと定かではないので、申し訳ありません。</p>
住民2 1	<p>尾道新聞には、理解を得ましたというふうに書いてあった。教育委員会さんの方としてだが、納得していない記事だと思う。であれば。それを訂正ようとはしないのか。違いますよと言わないのか。ぜひ言っていただきたいが。いかがか。あそこに来られていない方は、「そうか、合意したのか。」と新聞を見られたら思うのではないかと思うが。</p>
三浦学校経営企画課長	<p>我々の意図と違うところについては、誤解を生じさせたということで、申し訳ないと思っている。</p>
住民2 1	<p>訂正をされないのか。</p>
三浦学校経営企画課長	<p>先ほど申し上げたが、この場で訂正をさせていただいて、あそこで理解を得た、納得を得たということは考えていない。今後も理解していただくように努力していきたいというふうな趣旨であったと思う。訂正させていただく。</p>
住民2 1	<p>ちょっと違うが。尾道新聞さんの方に、違いますよと言われぬのか。</p>
三浦学校経営企画課長	<p>それは、取材を受ける中で、新聞社さんが、感じられたことを書かれたのか、分からないが、そこは、新聞社さんの書き手のことなので、この度は訂正しなかった。</p>
住民2 1	<p>今後も訂正するつもりはない。誤解されていいと思っているということか。分かりました。教育委員会としてのご意見としては、そうということですね。新聞に載ったのは誤解なんだけれど、教育委員会としては訂正しないということでしょうか。分かりました。ありがとうございます。</p>
住民2 2	<p>私、土堂小学校を出て、長江中学校を出て、東京の都立大学で建築学科を出て、小学校のライフサイクルに関する施工というのを修士論文で書いた。そこで、世田谷区の学校の現状を調査して、コンクリートの強度というものを年代順に調べた。すると、昭和30年以前のコンクリートは、非常に丈夫。コンクリートというのは、そもそもちゃんとメンテナンスすれば、100年でも200年でももつ。一番いけないのは、40年代で、海砂を使っているものだ。それと、骨材が、山の骨材が、アルカリ骨材反応といって膨張する。山の砂利でも。だけど、昭和30年以前は、川砂の砂利を使っているもので、非常に状態がいい。ちゃんとメンテナンスすれば、100年でも200年でももつ。一番危ないのは</p>

	<p>昭和40年代に作った校舎。ですから、80年が限界だというのは、おかしいのではないかと思っている。それと、崖が危険地域だと言う。であれば、崖の改修をやればよいのではないか。そこは、教育委員会のことではなくて、土木課の話だと言われればそれまでだが。であるのであれば、市長さんに言って、崖の改修をお願いしますと言えばよいだけの話だと思う。それと、土堂、長江、久保の学校区に関して、調査をされているが、どうしてその人口が減っているところをまとめて、日比崎や平原団地が増えているのではないか。どうして、そっちの方、もともと土堂小学校区だった。日比崎よりも古いので、土堂小学校は。あっちにどんどん取られて、向こうはプレハブで勉強している。こっちはもう、それはそう。この土堂、長江、久保地域は、景観条例と高さ制限があつて、マンションが建てられない。高いマンションは。もちろんぼくも土堂に住んでいるので。そんな高いマンションを建てられたら、景観が悪くなって嫌。だから、人口が減るのは当たり前。どうして、その増えている地域はそのままにしておいて、土堂小学区に入れればよいではないか。多分だが、統廃合すれば補助金がもらえて、業者さんが儲かる。そこは教育委員会さんが考えるのではなくて、もっと上の方から出るのだと思うから、お役人さんは、政治家のトップの命令で動いているのだと思う。その辺からちょっとおかしい。それとあと、久保中学校は、長江中と久保中学校と統合して、今の久保中学校で統合する。なんで今の校舎を建て替える必要があるのか。長江中だって、まだ新しいではないか。それを壊して、小学校をつくられるんですね。</p>
<p>教育長</p>	<p>途中で切ってごめんなさいね。一つ一つ答えさせてもらえたら、質問が長引くと、答え方が難しいので、そこまでで答えさせてもらってもよいか。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>まず学区、日比崎小学校が人数が増えているから入れればよいのではないかということだが、学区の改変については、非常に難しい状況だと認識している。これまでも様々な議会とか、議員さんからご質問いただいて回答しているが、日比崎小学校においては、昭和28年に開校している。その校区というのは、吉和小、それから栗原小、一部土堂小、これらが児童の増加に耐えられないということで、新設された学校だと認識している。現在の状況を見てみると、日比崎校区というのは、一時期の急増から、急減の状況になっている。私の認識では、平成25年度が、673人で一番多かった時だが、今年度令和4年度では493人、令和10年度では396人という急激に児童が減少している状況がある。こういった児童が減少している地域の一部を切り取って、他校の校区に入れるということは、逆の立場でお考えになれば、お分かりだと思うが、それは今の日比崎小学校区に住んでおられる方が、そこを卒業された方からすると、到底納得していただける話ではないのではないかと思っている。</p>
<p>石川庶務課管理係長</p>	<p>先ほど話のありました久保中学校の校舎について、久保中学校の建て替えがなぜ必要なのかに至った考えについて説明する。久保中学校</p>

の建物は、大きく2つの建物がある。海側に教室がある方、もう一つ、バイパス側に職員室がある建物。その職員室のある方の建物が、両方とも昭和40年くらいの建物でして、実は我々も今後の学校施設の管理のために、学校施設の長寿命化計画等の文部科学省の指導の下、計画を立ててやっている状況であって、各建物のコンクリート強度の情報を基に、建て替えなのか、長寿命化にするのかというのを一つの参考資料にして、校舎を使いながら指針を立てている。その職員室にある方の建物のコンクリート強度は13.5。ある一定水準よりも低いということがあって、長寿命化して改修した建物については、我々は、30年くらい使いたいと思っている。これはなぜかと言うと、大体建て替えの指針は、40年から50年で新規の建物に建て替えていくような従来の考え方の下、それを長寿命化してさらに30年というようなことを考えるので、コンクリート強度が、ある一定程度数字がないものについては、長寿命化ではなく、建て替えをした方がよいというような考えをもって計画を立てている。そういうところから考えて、久保中学校の建物1棟については、長寿命化、改修してもう30年使うというよりは、建て替えをして、新たな建物として、今後利用していった方が好ましいのではないかという考え方で、建て替えという考えに至ったということだ。そして、長江中学校の方は、施工方法を考えるにあたって、いったん、今児童の方は、長江中学校の既存校舎の方に令和7年度に入って、その中で工事を進めていく。その中でグラウンド側に校舎を建築することにより、居ながら施工という形で、工事の工程がとれるということもある。建物については、まだ壊すということが決定したわけではない。また、この後該当の長江の地域に行くが、いろんなご意見をいただきながら、活用方法を考えていく。学校は、ただし長江中学校のグラウンドの敷地の中で収まるということで、回していけるということが、この案の1つのメリットということで、現在の提案に至っている。そういうことで、久保中学校の建物を中心に答えさせてもらった。

住民22

校舎については分かった。やはり、長江通りだと思う。お年寄りのドライバー保護者のみなさんが気にしているのは、長江小学校までならば、まだ長江通りの3分の1、それよりも、その3倍、小学生をあの危険な長江通りを歩かせるのは、非常に危険だと私も思っている。お年寄りのドライバーが増えている。急に運転中におかしくなって、突っ込んだというニュースが、毎日のように飛び交っている。その辺の安全性を確保しないで、このまま進めるのはどうかと思う。その辺を本当に、何も起こらなければいいが、起こった時には、もう私はもう退職していますからという人もいるかもしれないが、責任はだれがとるのか。責任とられるか。

住民23

ぼくはずっと現地存続で、耐震で3校とも存続してほしいなと願っているが、先ほどスライドで2回子供を転校させるのは、すごく保護者からもいろんな意見があり、やめられたというふうに言われた。でも、土堂の小学校の子たちは、プレハブに上がり、それからまた転校させられる。それって、2回転校するよりつらいのではないかと思う。ぼくも

	<p>プレハブで幼少期過ごしたことがあるが、かなり辛い、生活するの。最新のプレハブとは言うが、イノシシはいるし、野犬もいる。とても平谷市長の言われているような安心・安全な環境ではない。そんな不安の中通わせる親の心もそうだし、児童の心もすごく不安だと思う。子供だからそんな中でも強く生きるというふうになるのかもしれないが、私がある立場だったら、すごく不安。なので、また耐震して、今までの学校に戻ってほしいと思う。もう一つだが、資料1の児童数、この児童数、毎回示されるが、学校選択制をやめるというので、この資料を作られ、配られているが、その時も急激に人数が減るということで、合併はしようがないでしょというような数字の出し方だったが、これを見て、正直何なのかと思う。あまり人数も減ってないし、こんなにごたごたしている中、人数は増えたり、減ったり。それをどうされたいのかが、よく分からない。もし減ったところがあるとすると、教育委員会の姿勢が、生徒数を減らしていると思う。そんなところに、尾道で学ばせたくないという市外、県外の方が、他でもう教育はそちらで行かせるということで、減っていると思うが、どうか。あの時に示された資料とは違って、人数が違う。数年前に出された資料よりも人数がいるし、減っていない。こんな中でも、それでも学ばせたいという人がいると読み取れるが、違うか。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>児童数の推計ということで、以前出された資料というのは、何年かものになる。当然それとは、最新の児童の出生数に基づいて出しているので、数値が変わってきている。以前のものが分からないので、どのくらいの変化があるかは分かりかねるが、そうは言っても、その校区の中に出生数なので、生まれている児童が減少しているのは確かであると思う。今、ご意見もお聞きしていて、やはり少ない人数での教育もいいところがあるとかというご意見があるということは理解しているが、我々が提案したというのは、やはり今、この数のままで将来いつか、本当に子供たちが、勉強、学力だけではなく、テストであるとか、そういった学力だけではなくて、子供同士の触れ合いであるとか、たくさんの子供たちの中で考えを深めていくとか、そういったことを踏まえた時に、やはり複数の学級があった方が望ましいだろうというふうに考えて、この度提案した。</p>
<p>住民23</p>	<p>以前、同じような質問をした時に、なぜ学校選択制をなくして、こういったグラフを出されるのか聞いたら、地域コミュニティが衰退するからという理由だった。それは理由にならないと思う。学校がなくなる方が、よっぽど地域が、コミュニティが衰退すると思う。地域に学校は必要なもので、このグラフを見せて、本当にどうされたいのか分からない。新しい学校をつくるために、この人数を見せて、どう示されているのかが分からない。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>地域の衰退ということに関しては、この度アンケートをとらせていただく中にも、多数そういったご意見はいただいた。それに対しての回答も今日お配りしているところだが、ご心配については非常によく分</p>

<p>住民 2 3</p>	<p>かる。繰り返してのお答えになって申し訳ないが、教育委員会としては、子供の学習環境ということを中心に考える。そうした時に、この資料をお示しすることで統合したいということではなくて、こうした実際の推計を基に考えた時に、この数年ではなくて、長い将来を考えた時に、本当に今の学校規模でいいのだろうかというところから提案させていただいた。</p> <p>長い目で見ると、小規模校で残す方向、20人くらいが、教師の友人もいるが、20人くらいがみやすいとよく言われている。なので、ぼくもだが、1学年1学級で育ったが、何も問題ないし、学びやすかった。なので、小規模校であるから統合するというのは違うと思う。教育部長が言われているように、市民と一緒に新しい学校をつくろうと機運を高めたいと言われていたが、この説明会では、そういった機運は全く感じられないし、そうしたいような態度には見えない。私からは以上だ。</p>
<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>今挙手されや2人で終わりにさせていただきたいと思います。</p>
<p>住民 2 4</p>	<p>教育長、10年やられて、何か成果が残ったか。みなさんの話を聞いていると、もう結論ありきで、住民に話をさせただけで、聞こうとする姿勢が全く感じられない。学校の歴史とか、伝統とか、そういうものは、どう考えているか。最後に、次回いつやられるか。新しい教育長が来ていつ話をされるのか。ずっと待っている。近々をお願いします。以上。</p>
<p>住民 2 5</p>	<p>先程の複数学級のメリットの話だが、保護者の説明会の時にも、保護者の方からご指摘があったように、令和9年に新しい校舎ができて、令和10年、1年経っただけで、3校が統合しても1年生のクラスが、1クラスになるというデータが、ここに示されている。64億円をかけて大きな学校をつくっても、わずか1年で、学校のメリットと言われている複数学級ということが崩れているが、それはどういうふうに考えているか。もっと長い目で見られた時に、そういう答弁はできないとは思いますが。あと、先ほどこの計画を見直すつもりはないと、はっきり断言されたのだが、こういうふうに双方向で意見を交わしているのに、全くそれを受け入れる気持ちがないことを表明されるというのは、本当に問題ではないかと思う。見直す気持ちがないというのはどういうことなのか。こうやって、みなさんが建設的な意見を述べられているのに、それをもう聞く耳をもたないということを表明されていることと思う。おかしいのではないかと思う。お願いします。答弁の方を。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>本日こうして本当に遅くなって申し訳ないが、地域の方を対象に説明会をさせていただいた。説明にあったように、来週各地域を回っていくわけだが、我々としましては、ここでご提案をさせていただいたことについて、ご理解を求めていきたいという思いで開催をしている。また、他地域においても説明会を開催するので、そこでのご意見も踏まえ</p>

住民 2 5	<p>ながら、先ほどの方のお答えになるが、次はいつやるのかということについても、また全ての地区を終えた後に、その時の反応とかを踏まえながら、またお示しさせていただきたいと思う。</p> <p>ありがとうございます。あと、私最初に申し上げたが、これは土堂学区だけの問題ではないと思う。尾道市の教育行政の在り方が問われていると思う。今日、メディアの皆さんが来られていると思うが、しっかりこれを報道していただいて、尾道市民が意識をもって考え直していかないといけないと思う。本当にこの狭い土堂学区だけのことではない。この席で市長に答弁していただきたいくらいの大きな問題。64億円という私たちの大切な大金が使われるわけ。これを、このくらいの小さい話し合いではなくて、もっともっと大きなものとして、尾道市民みなさんで考え、これを全国で起こっている統廃合の問題。全国のメディアのみなさんにももっともっと関心をもっていただいて、ここで起こっている問題をしっかり受け止めて、それから議論を尽くしていく必要があると思う。これで合意形成ができたということで、見切り発車をしていただくような問題ではない。本当に大きな尾道市民の税金が使われている大変大きな問題。これで進められるようなことがあれば、大変問題だと思うし、責任をとってくださるのは誰か私も聞きたいと思う。私はこの地で生まれ育っているが、ずっとここで生まれ育ち、しっかり生きていく覚悟であるが、この教育行政の中で、ここで決断をされると、大変苦しい思いになる。もっともっとしっかり建設的な意見を交わしながら、しっかりした案をつくっていきたいと思うので、どうぞ教育委員会の皆さま、聞く耳をもっていただきたいと思う。よろしくお願いたします。</p>
教育長	<p>時間になったが、ちょっと説明をさせていただくが、統合イコール新設の64億という考え方は、これは違う。今、統合に合わせて新しい環境をこしらえたとしたら、64億かかるが、それは後年までいく。みなさんが言われている耐震の部分は、一時的に耐震が数億でできた。としても、10数年後にはまた改築の60何億が必要だということになるので、それを一緒にすることはできない。ですから。話が違うことを言われるので、そこは違うと思うと申し上げた。</p>
住民 2 5	<p>今のお話、ちょっと分かりにくかったが。</p>
教育長	<p>あなたが言われているのも分かりにくい。</p>
住民 2 5	<p>どういうことか。みなさん分かったか。さっきの。分からない。</p>
教育長	<p>統合イコール64億と言われるが、それはその瞬間に64億かかるけれども、80年くらいの話ですよということ。</p>
住民 2 5	<p>スパンと言っても、私たちの払っている税金で行われるわけ。未来の子供たちが背負っていくわけ。</p>

教育長	スパンの話をしなかったらおかしい。そこを、効果の部分はどこまで・・・。
住民25	でも1年後には生徒がいなくなるわけ。おかしいじゃないか。
教育長	学校選択の数字は、あれに入っていない。
住民25	学校選択は5人。
教育長	5人か10人。
住民25	10人なのか。
教育長	5人か10人か。今は5人。でも、新しい学校になったら5人か10人。
住民25	理解できない。
教育長	また議論しましょう。
住民25	つじつまが合わない。あなたたちが言っていることは。
教育長	そうですか。どう言えばいいか。説明してくれるか。
三浦学校経営企画課長	生徒数に関して。令和10年度の小学生の数が27名というふうにお示しをしている。2クラスになるのは35名。今、教育長が、学校選択制度、もし今の統合の方向性が決まったということに仮定すると、最大10名の学校選択になるので、プラスすると37名になる。ということは、複数学級になるということ。
石川庶務課管理係長	事業費の補足ということにならないが、最後に伝えたかったことを時間をいただいてポイントを話す。たちまちこの我々の提示案が落ち着いた場合、64億で試算し、説明している。もしそれぞれ違う、例えば、それぞれの学校を耐震化したことを想定した場合、いずれ近い年数のうちに建物の建て替えがくるだろうということ。そうなった時に、また同じように、どこかの学校の建て替えの費用が出てくるので、確かに先行して費用が生じるというのは確かなことだが、丸々64億が新たな投資ではなく、今後の建て替えの投資がこのタイミングでやって来るということで、64億が全て今回の統合において生じた事業費ではないということをお伝えしたかったということ。
住民25	わからん。
住民26	まあ、見切り発車だけはしないように。

<p>住民 2 5</p>	<p>どちらにしても、本当にこの問題は、土堂学区の地域だけの問題ではないと思う。本当に尾道市民がみんなで考えていきたいと思うので、どうぞこれからも説明会、そして、考える耳をもっといただいて、ご検討の方よろしくをお願いします。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>5 閉会（学校教育部長）</p> <p>まず先程、三浦学校経営企画課長が、学校選択制度について、10名枠で学級数が増えるというお答えをさせていただきましたが、それは誤りなので、訂正をさせていただきます。学校選択制度は、学級数を増やす目的で今は行っておりません。ですから、例えば、27人が入った場合には、5人を受け入れるということになりますので、実質1クラスの運営になろうかと思いますが、ただ、今の推計ですので、実際どういうふうな児童数になってくるかというのは、もう少ししないと分からない状況もございます。例えば、もし最悪の場合、当然それは優れた教育施設の中で、優れた教育を行っていくということは、土堂小学校の教育をつくられてきているみなさん、目も肥えていらっしゃるし、本当に教育について関心が高いということは十分分かっておりますので、それに耐えられる学校を絶対つくっていきたくて考えています。そういう思いで提案させていただいているので、児童生徒数の方は27人で出させていただきました。でも、この27人になったからといって、教育の質が落ちるといことは絶対にさせません。</p> <p>それでは、閉会挨拶ということになりますが、今日は本当にお忙しい中、教育委員会の地域説明が大変遅くなった中、これだけ多くの方にお集まりいただきましたことをまずもって感謝申し上げます。</p> <p>今日出席いただきました皆様からは、通学路の問題。特に、長江通りの懸案。また、地域説明会の在り方や土堂小教育、学校選択制度、それから耐震とか、現地存続、たくさんのご意見をいただきました。来週には、久保、長江、山波地域で説明会を開催し、3地域の皆様にもこれと同じ中身で提案させていただこうと思っております。教育委員会としては、小中一貫教育校構想、尾道の学校教育をリードしていくことができる学校、子供たちが切磋琢磨しながら生き生きと学ぶことができる学校、子供たちの夢の実現や社会的自立に向けた土台作りのできる学校を、未来を担う子供たちのために強い思いを持って実現させたいと思っております。今後も理解していただけるよう、教育委員会としましても努力を積み重ねてまいります。</p> <p>本日は、説明会にお集まりいただき、本当にありがとうございました。</p>
<p>住民 2 7</p> <p>小柳学校教育部長</p>	<p>今後の説明会のスケジュールはどちらで見られるのか。説明会のスケジュールとか。</p> <p>まだ全く分からない。決まったら回覧とか。</p>

	~21:25
--	--------

※議事録中の住民を示す数字は一連の質問の流れを示すものであり、異なる数字であっても、同一の方のご発言である場合があります。